日本協会だより

平成6年度第1回全国理事会

日　時　平成6年6月11日(土)10時30分～16時35分

場　所　岸記念体育館504会議室

出席者　渡邊副会長、中澤専務理事、大野監事、常務理事6名、理事5名、参事3名（委任状4名）

■審議事項

1．平成5年度事業報告案について

専務理事より概略説明、各担当常務理事が補足説明を行い、意義なく承認された。

2．平成5年度収支決算報告案について

原案通り承認。

3．平成6年度第1次補正予算案について

国家予算の審議遅れにより日本オリンピック委員会からの委託金、スポーツ振興基金からの補助金について提示がなく、本件について現時点では審議不能。提示あり次第常務理事会で審議の上、文書稟議とする事とした。

■報告事項

1．日本ハンドボールオーナー会議報告

4月21日に開催された第2回オーナー会議で各オーナーの担当が決定したことの徹底を図る努力をすることとした。

2．男子世界選手権アジア地区予選について

アジア第3代表決定戦となる東西地区の2位同士の試合の日程、開催地等は常務理事会に一任することとした。

3．アジア大会について

キルギスタン女子の参加希望があり、参加が決定すれば試合数は変更するが競技日程は変更しない。入場料は各日とも1600円に決定。

本大会の広島開催にご努力いただいた荒川前副会長を大会開催中に広島にご招待する。また、ボルスタットIHF規則審判副委員長についても招待することとした。

4．97世界選手権大会熊本招致について

9月8日～11日の間、オランダで開催されるIHF総会の投票で決定する。エジプトとの争いになる見込みだが、エジプトの国内情勢の悪化等もあり熊本有利と判断している。

5．ワールドハンドボールデーへの参加について

中国よりの招請から出発までの日数が少なく、チーム編成に苦労したが男女とも広島選抜で対応した。

6．韓・中・日ジュニア交流大会への選手派遣について

本行事は日本体育協会の主催行事であ[illegible]、日本協会派遣役員は佐分理事（高体連部長）が当たる。

国体のブロック予選との重複については該当するブロックに調整を依頼した。

7．国内開催の国際大会について

先月発表した予定どおり実施する。

8．用具用品検定委員会は大塚常務理事、登録委員会は大西常務理事を中心に進める旨、報告あり。

以上

6月度臨時常務理事会

日　時　6月25日(土)10時30分～12時

場　所　東京体育館第二研修室

1．男子世界選手権アジア地区第二次予選について

アジア代表の3位を決める第二次予選開催地について、韓国で開催する場合を含め諸条件の検討を行った。

2．広島アジア大会について

組み合わせ抽選会の日程を早急にAHFと調整することとした。アジア大会出場選手について7月下旬に決定予定。

3．男子世界ジュニア選手権大会について

10月23日～11月1日、イランで開催のAHFからの連絡について、国体開催と重なることで日程の変更を申し入れることとした。

以上

●お詫びと訂正

前号「湧永製薬株式会社会長湧永儀助氏ご逝去」の文中、関西学院大学1935年卒は昭和35年卒の誤りでした。お詫びして訂正致します。

CONTENTS

表紙はオリンピックソリダリティに来日したルント氏

平成6年度全国高等学校総合体育大会組合せ

高松宮杯第45回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

氷見高校グラウンド　8月1日～4日
氷見市総合体育館　8月5日～6日

男子

- 県立香川中央(香　川)
- 県立境港工業(鳥　取)
- 県立都城工業(宮　崎)
- 県立青森商業(青　森)
- 県立新潟江南(新　潟)
- 二松学舎大学附属沼南(千　葉)
- 県立盛岡第一(岩　手)
- 市立桜台(愛　知)
- 県屋代(長　野)
- 大分電波(大　分)
- 浦和学院(埼　玉)
- 県立富雄(奈　良)
- 瓊浦(長　崎)
- 県立伊奈(茨　城)
- 修道(広　島)
- 高岡向陵(富　山)
- 県立池田(徳　島)
- 県立耐久(和歌山)
- 県立東岡山工業(岡　山)
- 県立四日市工業(三　重)
- 育英(兵　庫)
- 興南(沖　縄)
- 県立東根工業(山　形)
- 横浜商工(神奈川)

- 北陸(福　井)
- 駿台甲府(山　梨)
- 久留米工業大学附属(福　岡)
- 府立北嵯峨(京　都)
- 県立高知東(高　知)
- 学校法人石川(福　島)
- 県立富士(静　岡)
- 県立富岡(群　馬)
- 県立羽後(秋　田)
- 県立長浜北(滋　賀)
- 県立氷見(富　山)
- 県立甲陵(鹿児島)
- 県立神崎農業(佐　賀)
- 桃山学院(大　阪)
- 明星(東　京)
- 道立札幌琴似工業(北海道)
- 県立松山北(愛　媛)
- 県立下関中央工業(山　口)
- 國學院大学栃木(栃　木)
- 県立江津(島　根)
- 仙台育英学園(宮　崎)
- 熊本市立商業(熊　本)
- 県立岐阜商業(岐　阜)
- 県立小松工業(石　川)

女子

- 熊本国府(熊　本)
- 県立城北(徳　島)
- 文化女子大学附属杉並(東　京)
- 県立境(鳥　取)
- 県立添上(奈　良)
- 県立郡山女子(福　島)
- 県立総社(岡　山)
- 県立養老女子商業(岐　阜)
- 県屋代(長　野)
- 県立鹿児島南(鹿児島)
- 埼玉栄(埼　玉)
- 夙川学院(兵　庫)
- 清水市立商業(静　岡)
- 聖和女子学院(長　崎)
- 四天王寺(大　阪)
- 県立小杉(富　山)
- 県立青森中央(青　森)
- 群馬女子短期大学付属(群　馬)
- 筑紫女学園(福　岡)
- 県立大曲農業(秋　田)
- 県立横浜日野(神奈川)
- 県立岩国商業(山　口)
- 県立今治北(愛　媛)
- 県立福井商業(福　井)

- 昭和学院(千　葉)
- 県立盛岡第二(岩　手)
- 暁(三　重)
- 初芝橋本(和歌山)
- 県立浜田商業(島　根)
- 県立本庄(宮　崎)
- 県立水海道第二(茨　城)
- 県立大分東(大　分)
- 土佐(高　知)
- 北海道釧路湖陵(北海道)
- 県立氷見(富　山)
- 市立守山女子(滋　賀)
- 県立山梨(山　梨)
- 県立新潟江南(新　潟)
- 県立浦添(沖　縄)
- 聖和学園(宮　城)
- 山陽女子(広　島)
- 名古屋短期大学付属(愛　知)
- 小松市立女子(石　川)
- 県立栃木女子(栃　木)
- 県立神崎農業(佐　賀)
- 県立高松商業(香　川)
- 県立北村山(山　形)
- 府立洛北(京　都)

第50回国民体育大会リハーサル大会
第14回全国クラブ選手権大会組合せ





第37回全日本教職員選手権大会組合せ





アジア大会に向かって

大会開幕100日前を迎えて

アジア競技大会施設専門委員(広島県協会常任理事)　山本　一

広島アジア競技大会開幕100日前となる6月24日を中心に、広島県内各地や東京では、㈶広島アジア競技大会組織委員会主催のセレモニーやイベントをはじめ、大会ムードを高めるための様々な催しが繰り広げられました。

組織委員会は、19日に広島市の繁華街でハトの形をしたバルーンに思い思いの「ウェルカムメッセージ」を寄せ書きするイベントや、アジアの民族衣装などによる華やかなパレードを行いました。また、サッカーJリーグ1stステージで優勝した「サンフレッチェ広島」と地元プロ野球の「広島カープ」の選手たちも駆けつけ、大会のPRに一役かってくれました。

6月24日には大会アドバイザーのプロ野球解説者の山本浩二氏や、女優の東ちづるさんを迎え、歓迎メッセージをのせたハトの形をしたバルーン100個を大空に放ち全国にPRしました。このバルーンは無公害の材料でできたものです。また100日前にちなみ大会を花いっぱいの美しい広島で迎えようと「百日草」(ヒャクニチソウ)の苗と種を無料配布しました。広島交響楽団の街角(まちかど)ミニコンサートも行われました。また各商店街も100日前イベントとして100円セールとか、いろいろな催しをしてPRにつとめました。

東京では、大会でのPR活動その他のお手伝いをするエイシアードベレー達が「百日後に合いましょう」の意味を込めて「百合」(ゆり)の花を松平康隆日本選手団長や選手たちに贈りました。

大会のPRは、このように広島を中心に全国に行っていますが、仲々広島アジア大会を知ってもらうには苦労が多いようです。全国のハンドボール関係者の皆さんにも、大いに協力していただきたいと思います。さて大会の準備の方ですが、100日を切ったということで、急ピッチで進められています。団体競技については、5月5日にチームエントリーを締め切りましたが、組織委員会は6月6日にアジア・オリンピック評議会(OCA)に加盟する全ての国・地域の国内オリンピック委員会(NOC)に氏名のエントリーフォームを発送しました。この氏名のエントリーが広島アジア大会への最終的な参加申込みとなります。各NOCには参加する競技・種目に役員・選手の個人名と記録などの情報を記入し、提出してもらいます。氏名のエントリーは大会30日前の9月2日に締め切られ、最終的に全ての参加国・地域、参加競技・選手が確定します。



しかしながら、この9月2日の最終エントリーを待っていたのでは準備作業が進みません。そこで各競技ごとに、個別の準備を行わなくてはなりません。サッカー競技は団体競技のトップを切って6月1日に広島市役所で組み合わせ抽選を行い、発表しました。

人気のスポーツだけに日本の出場する予選リーグのチケットは何十倍という倍率だそうです。ハンドボールにおきましても前号にも書きましたが、男子5チーム、女子6チーム(キルギスタンが非公式ながら参加希望を伝えて来ているため現在確認中)の参加国で決まりそうです。5チームと6チームの参加では試合の方法が違ってくるため、AHFからの回答を心待ちにしているのが実情です。

ハンドボール競技は、当初男女合わせて15チームくらいの参加を見込んでいましたが、相当数減ってくるのは確実なので、競技日程を10月5日から10月14日迄と決定しました。女子を奇数日、男子を偶数日に行います。一日に2試合なので、午後3時以降の試合とする予定です。

組み合わせも7月中には決定し、入場券の拡販にも力を注いで行きたいものと思っています。広島では7月2日にアジア大会ハンドボール競技準備のための決起大会を行い、運営役員の一層の団結を図り、本格的準備作業のハズミにすることになっています。全国のハンドボールファンの一層のご協力を重ねてお願いします。



第12回アジア競技大会 広島1994

試合日程

		第１試合	第２試合
10月５日(水)	女子	17:00〜18:10	18:40〜19:50
10月６日(木)	男子	17:00〜18:10	18:40〜19:50
10月７日(金)	女子	17:00〜18:10	18:40〜19:50
10月８日(土)	男子	15:00〜16:10	16:40〜17:50
10月９日(日)	女子	15:00〜16:10	16:40〜17:50
10月10日(月)	男子	15:00〜16:10	16:40〜17:50
10月11日(火)	女子	17:00〜18:10	18:40〜19:50
10月12日(水)	男子	17:00〜18:10	18:40〜19:50
10月13日(木)	女子	15:00〜16:10	16:40〜17:50
10月14日(金)	男子	15:00〜16:10	16:40〜17:50

※10月13日の女子最終戦は日本－韓国(予定)
10月14日の男子最終戦は日本－韓国(予定)

アジア大会日程決まる



第12回アジア競技大会広島１９９４「ハンドボール競技」の参加国と、試合日程が次の通り決定しました。
なお、組み合わせは8月中旬に抽選会を開催して決定する予定です。

■参加国

【男子】日本・韓国・中国・クウェート・サウジアラビア
【女子】日本・韓国・中国・カザフスタン・トルクメニスタン

■試合方法

総当りのリーグ戦

■前売入場券について

(1)全席自由席
(2)入場料
前売　大人　１４００円
　　　小人　　７００円
当日券は大人１６００円、小人８００円です。
(3)販売
前売券は下記宛にＴＥＬまたはＦＡＸでお申し込み下さい。
広島市ハンドボール協会
広島市中区三川町10－11
ＴＥＬ　０８２－２４３－２２４０
ＦＡＸ　０８２－２４３－８８８２
担当・山本・高原



第1回女子世界学生選手権大会レポート

大会運営について

団長　福地　賢介
（全日本学連理事長）

平成6年6月18日9時20分発のオーストリア航空（OS）122便にて、記念すべき第1回女子世界学生選手権大会に向けてフランクフルト（10日より調整合宿を行なっていた）を出発。ウィーンから大会本部指し回しバスでスロバキア国ブラチスラバ市に入った。

大会は12ケ国の参加で予選リーグ・順位決定戦方式が採用されたが、日本は予選リーグA組（組み合わせ・成績等は別掲）でハンガリーと共に3勝2敗（勝点6）の同率となったものの、得失点差で3位となって5－6位決定戦へ回り、韓国（B組3位）に敗れ6位であった。当時は先々の成績と自己満足をしたが、時間の経過と共に予選リーグで惜しい試合を落したと言う印象の試合もあり、今後は、もう少し上位を狙えるかなと言った良い意味での欲も出てきた。



開会式ではプラカードを持って整列。下は6位入賞の賞状

1. AKADEMICKÉ MAJSTROVSTVÁ SVETA V HÁDZANEJ ŽIEN 6. MIESTO
BRATISLAVA 26/6/1994
Japan



試合内容、技術等の感想その他に関しては藤原監督の報告があるので、団長としてのみでなく学連理事長として運営者サイドの立場で、大会運営及びその他の事に関していろいろな面を見るように努めたが、私なりに感じた事の中から幾つかを記してみる。総体的な印象としては、我々は世界と名がつくと何となく構えてしまいがちであるが、派手さはないものの、手作りの大会と言う印象と親切みが感じられた。

初日のドイツ対ブルガリア戦でIDカードと出場選手の確認がなかったと言う事はあったが、それ以外では必要以上と思われる位の各試合毎のIDカードの確認、セックスチェックについては、パスポートの信頼性を重視して、個人エントリー用紙とパスポートのみの確認で終っていた。

ドーピング検査について注意していたが、当初はアトランダムに個人を抽出して実施とは聞いていたが、実際に行われたと言う話が聞かれなかった。

開会式は、スロバキアの首都ブラチスラバの会議場ホールにて行われたが、選手団長及び関係者が着席待機。オープニングは、各国の主将が国名記載のプラカードを持った女性の先導により、自国の国旗を持って入場という形がとられた。民族舞踏の終わりをもって開会式が終了したが、挨拶も四ケ国語で行われ国際色に富んでいたが、しかし、クドくなく意外とスマートな感じを受けた。

試合は周辺都市に分散して900名から4千名収容の各試合場で行われたが、気負いは感じられず普段通りと言った印象であった。

食事について男子世界学生とかジュニアの遠征の話を聞く時に、口に合わないとか、その他聞かれるが、今回は、昼食・夕食（朝食はバイキング形式）は、二通りのコースが用意され、その中のどちらかを選択するようになっているとか。決して贅沢ではないがメニューにも工夫と気配りが感じられた。

なお、大会役員や地元の人達に、水道の水は飲料に適しているので、飲んでも絶対に大丈夫と言われたが、ヨーロッパではミネラルウォーターと言う事が頭を離れず、試飲もできないまま、炭酸入り（ノンガスがなかった）の水を飲んで我慢していた。この他、参加章、レセプション、その他に感じた事が多々あったが、何かの機会に記したいと思う。

8月度　行事予定

●国際大会

8/25～9/2	アジア女子Ｊ選手権大会	韓　国

●大会

7/31～8/6	第47回全日本高校選手権大会	富山・氷見市
8/6　～8	第14回全国クラブ選手権大会	福島・本宮町
8/6　～7	第21回全国高専選手権大会	青森
8/9　～13	第37回全日本教職員選手権大会	福島・石川町
8/19～22	第23回全国中学生大会	北海道・札幌市

●ナショナル活動

男子			
7/30～8/6	男子Ａ	強化合宿	福井・北陸電力
8/14～20	男子Ａ	強化合宿	愛知・大同特殊鋼
8/14～19	男子Ｊ（大学）	強化合宿	神奈川・日体大
8/23～24	男子Ｊ（高校）	強化合宿	大阪・大和銀行
女子			
6/16～8/3	女子Ａ	強化合宿	栃木・日立栃木
8/25～9/2	女子Ａ	強化遠征	ヨーロッパ

次回は平成8年（1996年）に、ブルガリアにて開催と決定しているが、更に研鑽しチーム力をアップして、今回より一つでも上に行く事を狙いたいと思っています。また男子は、市原日本協会前強化委員長の「全日本強化の一つとして、学生界の掘り起こしを」と言う事によるバックアップと、世界学生参加を育んだ中澤前理事長等の努力で、協会―学連のレールがひかれ、その後、世界学生への参加が軌道に乗っているだけに、女子も全日本学生選抜チーム選手を全日本Bとして、男子同様に学生陣の全日本への意欲の惹起に繋げてくれた井強化委員長をじめ、チャレンジカップの参加を企画して戴いた津川男子強化委員長などの計らいもあり、世界学生を軌道に乗せ斯界に寄与したいと思っている。

前月号（大会参加に際して）でも、紙面をお借り致しお礼を述べさせて戴いたが、その後もトレーナー派遣の浜脇病院（広島市）、強化合宿協力の日立栃木、エージェントとしてのみでなく、英訳その他細かい事まで嫌な顔をせずにやってくれたエモックエンタープライズ（港区西新橋）、日本ユニバーシアード事務局と密な連絡を保ち、的確な事務処理を戴いた斉藤・本多両事務局、その他関係者の方々に今回も紙面をお借り致し、お礼を述べさせて戴きたい。

第1回女子世界学生選手権大会成績

予選リーグ

A組（○印＝勝・△印＝引分・×印＝敗）　（下段数字は対戦日）

		スロバキア	ハンガリー	日　本	ドイツ	ブルガリア	ポーランド	勝　敗	勝点	得点失点
1位	スロバキア	※※※	13－21	26－18	22－19	27－18	20－20	3勝1敗1分	7点	108：96
2位	ハンガリー	○6.22	※※※	23－26	22－22	16－12	22－22	2勝1敗2分	6点	104：95
3位	日　本	×6.25	○6.20	※※※	18－19	17－16	24－22	3勝2敗 分	6点	103：106
4位	ドイツ	×6.24	△6.25	○6.21	※※※	20－23	26－21	2勝2敗1分	5点	106：106
5位	ブルガリア	×6.21	×6.24	×6.22	○6.20	※※※	18－16	2勝3敗 分	4点	87：96
6位	ポーランド	△6.20	△6.21	×6.24	×6.22	×6.25	※※※	0勝3敗2分	2点	101：110

※予選リーグで各試合に優秀選手が選ばれているが、山田美智代（東女体大）が対ハンガリー・対ブルガリアの2回、稲次彩（筑波大）が対ドイツ、遠藤ひろみ（東女体大）が対ポーランド、梶田華恵（東女体大）が対スロバキアで各1回受賞している。

※予選リーグでの得点ランキングで稲次彩選手（筑波大）が25点で4位、山田美智代選手（東女体大）が19点で6位。1位は39点のSNIGON（ポーランド）

B組

		チェコ	ルーマニア	韓　国	ロシア	クロアチア	台　湾	勝　敗	勝点	得点失点
1位	チェコ	※※※	15－11	16－14	20－16	23－20	27－20	5勝0敗 分	10点	101：81
2位	ルーマニア	×6.22	※※※	28－26	24－20	22－20	32－12	4勝1敗 分	8点	117：93
3位	韓　国	×6.20	×6.21	※※※	24－23	24－18	36－19	3勝2敗 分	6点	124：104
4位	ロシア	×6.24	×6.25	×6.22	※※※	24－20	31－19	2勝3敗 分	4点	114：107
5位	クロアチア	×6.21	×6.24	×6.25	×6.20	※※※	29－14	1勝4敗 分	2点	107：107
6位	台　湾	×6.25	×6.20	×6.24	×6.21	×6.22	※※※	0勝5敗 分	0点	84：155

予選リーグでの得点ランキング1位は37点のKIM H（韓国）

順位決定戦（1994年6月26日）

決勝戦	スロバキア	18	5－8 / 13－5	13	チェコ
3～4位決定戦	ルーマニア	25	14－10 / 11－10	20	ハンガリー
5～6位決定戦	韓国	28	16－8 / 12－13	21	日本
7～8位決定戦	ロシア	29	16－9 / 13－8	17	ドイツ
9～10位決定戦	クロアチア	25	11－9 / 14－7	16	ブルガリア
11～12位決定戦	ポーランド	30	13－8 / 17－16	24	台湾



女子世界学生選手権に出場して

監督　藤原　侑

第1回という記念大会でもある女子学生選手権大会に、監督という立場で参加出来ることの幸せを与えて下さった方々に感謝しながらも、期待に応えなければという責任と意欲を持ちながら、昨年1993年11月から選考会、2月、3月、6月（直前合宿）と強化合宿を重ねて来ました。3月には広島市においてナショナルチームとのチャレンジマッチにも出場出来てチームの骨子も出来、4月、5月は各地春季リーグ戦に出場のため、合宿こそ出来なかったものの各選手が技術的にも体力的精神的に向上しており、6月の直前合宿に入り選抜チームながらもチームらしさを持ち、6月10日（フランクフルト）に出発致しました。

早速、ダールムシュタット（ヘッセン州）に於てハンドボールの祭典（2年目）に参加し、4チームで10分ハーフのゲームをし、最後に20分ハーフのゲームをレギオナルリーガーのチームと行ない、かなり外国人チームに慣れること

が出来たのは初日としては大成功だったと思われます。12日はヴァーベラッハ市に行き、BSCヴァーベラッハ（レギオナルリーガー）とゲームを行ない、すっかり外国人慣れしたものだと思います。

13日は宿泊しているスポーツシューレにブンデスリーガーのアイントラフト・ヴィスバーデンチームに来て頂き、23－20の辛勝ながらも内容の良い勝ち方で、明るい材料が見えて来たようです。

15日は午前中ハイデルベルグに行き、クノップ氏（今回のドイツでのゲームメイクやその他一切の面倒を見ていただいた方）の自宅に招待を受けて、夕方TSVガーデンハイムとのゲームを行なった。ドイツでの最後のゲームはオルテンベルグにて女子ハンドボールを強化するという事で、元ドイツナショナル選手を抱える意欲あるチームと対戦した。ドイツ国内で全勝したものの、全日本チームの良いところを伸ばしながら、悪いところを修正するというゲームは大変成果があり、実のある滞在だったと思います。

18日は移動日で、午後国境越えを体験し、スロバキアへの入国となりました。

本部を置くスポーツマンホテルに日本・チェコ・スロバキア・ハンガリーの4ケ国が同宿となり、優遇を受けました。大会は6月20日～26日（23日は休憩日）となっていますが、20日いきなり優勝候補のハンガリーとの対戦。樫塚正一（武庫川女子大監督）、田中守（福岡大監督）両コーチとの入念なミーティングをし、選手共々一丸となって初戦に対するメンタル面とスキル面の合意を得て緊張することなく能力全開でスパートしました。結局、26－23の3点差で初戦を飾ることが出来、女子学生界の歴史の一頁が開かれました。ドイツでのテストマッチで絶好調だったポストプレーヤーの後藤（日体大）が右肘損傷で出場不可能だったのが不安材料だったが、稲次（筑波大）、山田（東女体大）、梶田（東女体大）、三安（武庫川女大）の確実なポイントで終始リードし、好守・安田（日体大）のキーピングも光り、大きく手を加えることもなく大事な初戦を勝利で飾ったことは大きな自信になったことだと思っています。

問題は第2戦目のドイツ戦。前半12－12で折り返し、後半、山田、稲次で14－12とリードをし、16分過ぎ14－14となり一進一退が続き、ドイツは速攻を止めてセット一本に絞ってきた。厚いディフェンスに攻めあぐみ、シュートはGK（188㎝）にことごとく止められ苦戦を強いられる。守っては、相手の大きい体からのカットインプレーに悩まされ、スタミナの消耗が目に見えて来たものの、長い攻撃に悩まされ、1点差で敗北。思えばこの1点が1・2位決定か5・6位決定かの大事なゲームだっただけに、残念に思う。しかし、山田、久保、稲次、安田の大活躍は賞賛される。

第3戦目はドイツを破ったブルガリア戦。シーソーゲームとなり、残り5分2点負け、4分1点、2分同点、1分切って1点リードし、そのまま逃げ切りの大逆転ゲームとなり、チームのムードも最高となった。

23日は休日となり、24日のポーランド戦は後半21分19－19となったものの、2点差で勝利となり、ここでAグループでトップに立ちましたが、最終戦（25日）のスロバキア戦に勝つか引き分けならば優勝決定戦進出となるチャンスはあったが、対スロバキア戦ではノーマークシュートを再三に渡り好守され、リズムに乗り切れないゲームで敗戦となった。よってAグループ3位となり、Bグループ3位の韓国と5・6位決定戦を行い、結果総合6位という順位で大会を

各試合の得点者

対ハンガリー●1994年6月20日＝於Topolniky

山田 美智代	東女体大	7点
稲次 彩	筑波大学	7点
梶田 華恵	東女体大	4点
三安 雅美	武庫川女大	3点
宮本 奈緒美	日本体育大	2点
久保 幸恵	大和銀行	1点
神津 奈美	東女体大	1点
小谷内 陽子	筑波大学	1点
		26点

対ドイツ●1994年6月21日＝於D.Streda

稲次 彩	筑波大学	5点
山田 美智代	東女体大	4点
久保 幸恵	大和銀行	3点
神津 奈美	東女体大	2点
宮本 奈緒美	日本体育大	2点
小谷内 陽子	筑波大学	1点
梶田 華恵	東女体大	1点
		18点

対ブルガリア●1994年6月22日＝於Bratislava

田村 啓子	武庫川女大	5点
山田 美智代	東女体大	4点
三安 雅美	武庫川女大	2点
稲次 彩	筑波大学	2点
梶田 華恵	東女体大	2点
久保 幸恵	大和銀行	1点
後藤 園	日本体育大	1点
		17点

対ポーランド●1994年6月24日＝於Senica

稲次 彩	筑波大学	7点
山田 美智代	東女体大	4点
三安 雅美	武庫川女大	4点
久保 幸恵	大和銀行	3点
田村 啓子	武庫川女大	3点
梶田 華恵	東女体大	2点
神津 奈美	東女体大	1点
		24点

対スロバキア●1994年6月25日＝於Bratislava

三安 雅美	武庫川女大	5点
久保 幸恵	大和銀行	5点
稲次 彩	筑波大学	4点
田村 啓子	武庫川女大	3点
大前 佳世	筑波大学	1点
		18点

対韓国●1994年6月26日＝於Topolniky

後藤 園	日本体育大	5点
山田 美智代	東女体大	4点
大前 佳代	筑波大学	3点
田村 啓子	武庫川女大	3点
三安 雅美	武庫川女大	2点
稲次 彩	筑波大学	2点
久保 幸恵	大和銀行	1点
宮本 奈緒美	日本体育大	1点
		21点

終えてしまった。

大会参加出場は、福地賢介団長（全日本学連理事長）、樫塚正一先生（武庫川女子大監督）、田中守先生（福岡大監督）、トレーナー田邊理香さん（浜脇病院・ハンドボール協会医科学委員会）、帯同国際審判員・後藤登氏・清水宣雄氏の皆様と一致団結し無事終了したことを心より喜んでおります。

最後になりましたが、チーム強化の為に惜しみなく御協力下さいました㈶日本ハンドボール協会をはじめジャスコ㈱、ブラザー工業㈱、オムロン熊本㈱、広島県ハンドボール協会、㈱日立製作所栃木、広島市浜脇病院、國学院栃木高校男子ハンドボールチーム、小山南高校男子ハンドボールチーム及びアシックス㈱、モルテンボール㈱、㈱ムトーエンタープライズ様に紙面をお借りしまして心より厚く御礼申し上げます。

惜しくもメダルは逃したが・・・

主将　山田　美智代

私達は、各大学から選ばれた16名の選抜メンバーとしてブラザー、オムロン合宿、広島のチャレンジカップを終え、第1回世界学生ハンドボール選手権大会に出場するため、日立栃木での合宿に入りました。日立栃木ではなまった体を元に戻すため、また外国人選手に対抗できる体力を作るために走り込みやフットワーク中心の練習をし、男子高校生を相手に高さとパワーに対する攻防を確認しました。

一週間ほどの合宿でコンビネーションもとれる様になり、日増しにチームらしくなりました。それからヨーロッパ選手との実際の練習ゲームと調整のため、ドイツへ向かいました。ドイツではハンドボールがとてもメジャーで、芝生での大会があったり幼稚園くらいの子供がゲームをしていたりと、日本では見られない光景がありました。

実際に私達がゲームをしてみて、ヨーロッパ人の大きさ・パワー・あたりの強さを改めてすごいと思いました。また逆に、それに対して私達のプレイで何が良く、何が悪いかもはっきりしてきました。ヨーロッパスタイルのディフェンスはあまりプレスをしないので、隙間をあけるブロックやずらしの早い展開、また今まで力を入れてきたクロス速攻がかなり得点となるケースが多くありました。逆にディフェンスのつめの甘さや、戻りのディフェンスにかなりの問題点が残りました。

練習では、その欠点を追及し、改善していきました。そして18日にスロバキアに移動しました。

オープニングセレモニーも終え、いよいよ本大会の第1戦であるハンガリーと対戦しました。私達自身、日本の力がどれくらいあるのか全く分からない状態でした。スタッフの方々から優勝候補の一つと聞き、とにかく思い切りやる事だけを考えました。前半から日本がペースをつかみ、3、4点差をつけて後半。守りを固め速攻というパターンができ、26―23でハンガリーに勝つことができました。

私達自身、まさかの1勝で、チームのムードも盛り上がり、この大会での手ごたえを感じました。

次のドイツ戦、前半はお互いに得点できず同点。後半はドイツが流れをつかみ、ロング・サイドシュートを次々に決められ苦しい展開。残り5分で3点差だったのを、1点差まで詰め寄ったのですが、あと一歩のところでそのまま19―18で敗れてしまいました。勝つチャンスがあっただけに悔いの残る試合でした。

私達のリーグは混戦で、1勝するかしないかで順位が大きく変わる状態でした。次のブルガリア、ポーランド戦共にペースをつかめなかったものの何とか2勝し、リーグの1位になりました。次の最終戦に勝てば1位か2位。メダルは確実なものとなります。日本のハンドボールの歴史の1ページをめくろうと、スタッフの方々とメンバーは次の試合に臨みました。

スロバキア戦は初めからペースをもっていかれ、私達がいい流れになるとGKに止められ、苦しい試合展開となり、そのまま大差で敗れてしまいました。次の5・6位決定戦でも韓国に敗れ、結局6位という結果に終わりました。

私達は、スタッフの方々、メンバーに恵まれメダルを狙えるところまで行くことが出来ました。結局、力不足で取ることは出来ませんでしたが、本当にいい思い出が出来ました。第1回という事だったので、他のチームがそれほど力を入れてなかったので、ここまでやってこれたのかも知れません。次の第2回では2年生も出られるので、この悔しさをバネに今回以上の成績を狙って欲しいと思います。また、個々にこの大会で学んだ事を自分のものとし、これからのプレイに役立てると共に日本のレベルアップに少しでも貢献出来る様、これからの練習に励みたいと思います。

男子

全体にレベルアップ果たす

中国新聞社運動部（同行記者）　天野　稔也

日新精鋼と湧永製薬で編成した広島県選抜チームが、6月初めに中国であった国際招待サーキットに参加した。平成8年のひろしま国体に向けた強化策の一環で、主力中心のAと若手主体のBの2チームが出場。二つの大会を転戦して、中国代表などと対戦した。両チームともに優勝は果たせなかったが、若手が成長を見せるなど収穫の多い遠征となった。

広島県選抜は団長が県ハンドボール協会の平田幸男副会長で、西山清監督（日新製鋼）、酒巻清治コーチ（湧永製薬）ら計27人。全日本選手5人は欧州遠征のため参加できなかった。

大会は6月23日の世界ハンドボールデーを前に、中国ハンドボール協会が中国チームのレベルアップと普及、親善を目的に初めて企画。第一ラウンド（6月2日～4日）は安徽省合肥市、第二ラウンド（6月7日～9日）は浙江省杭州市で開いた。

当初、参加予定だった韓国が欠場したため、広島県選抜は急遽2チームを組んだ。Aが玉村、河原（以上湧永製薬）、武田、林（以上日新製鋼）らの国体の主力組、Bは西山、鮎沢（以上日新製鋼）、酒巻、飯田（以上湧永製薬）ら若手を軸にベテランを配して編成。中国代表、安徽省選抜（合肥大会だけ）、中国ユース代表（杭州大会だけ）とリーグ戦で競った。

合同練習ができずに臨んだため、合肥大会はコンビネーションが今一つ。Aは安徽省選抜、県選抜Bを連破し、優勝をかけて中国代表と対戦したが、相手の守りを崩し切れず、23－31で敗れた。Bは公式戦の経験者が少ないこともあって精彩を欠き、3戦全敗に終った。Aは2位、Bは最下位だった。

攻守がかみ合い始めた杭州大会ではA、Bともに健闘した。Aは全勝同士で再び中国代表と顔合わせ。後半12分、16－15といったんリードしたが、その後、逆転を許して22－23で雪辱はならなかった。Bは初戦の中国代表に善戦。中国ユース代表に28－12で快勝し、最終戦を飾った。Aは合肥大会に続いて2位、Bは3位に入った。

6試合ずつ戦っての最大の成果は、ひろしま国体の軸になる若手の成長。象徴的だったのは、敗れたものの高さのある中国代表の攻めを組織的なディフェンスでしのいだ杭州大会の試合。合肥大会の反省を生かして積極的に守り、精神面でも受け身に回っていなかった。首脳陣から「成長株」に挙げられた杉山（湧永製薬）は「守りはかなり自信がつきました」と喜ぶ。西山監督は「若手は良く頑張ったので80点」と採点し、「全体のレベルアップができたのが大きい」と強調した。

一方、課題は攻撃力。西山や玉村らが個人技で得点を重ねたが、中国代表の2－4のディフェンスには攻めあぐんだ。ゲームメーカーの養成やボールを持たない選手の動きが、今後のポイントになりそうだ。現在、広島県は国体で4年連続優勝しているだけに、酒巻コーチは「連覇を途切れさせないためにも長期合宿を取り入れたい」と話していた。

中国ではハンドボールは人気競技ではないが、比較的盛んな合肥市ではA－中国代表の試合に3千人が訪れ、会場の安徽省体育館は熱気にあふれた。浙江農業大学を会場に充てて普及の拠点にする意気込みも感じられた。

移動はバスで8時間かかったり、試合は連日午後10時を回るなどスケジュールは結構ハードだった。中華料理が口に合わなかったり、風邪などで体調を崩す選手もいたが、何とか無事に全日程をこなすことができた。最後に中国ハンドボール協会や大会関係者らの温かいもてなしに厚く感謝したい。



中国遠征で多くの収穫をつかんで帰国した広島県選抜チーム（中国新聞提供）

成績

《合肥大会》

中国代表	29－20	広島県選抜B
広島県選抜A	30－27	安徽省選抜
広島県選抜A	34－22	広島県選抜B
中国代表	35－23	安徽省選抜
安徽省選抜	30－27	広島県選抜B
中国代表	31－23	広島県選抜A

（順位）①中国代表3勝②広島県選抜A2勝1敗③安徽省選抜1勝2敗④広島県選抜B3敗

《杭州大会》

中国代表	23－18	広島県選抜B
広島県選抜A	36－19	中国ユース代表
広島県選抜A	29－24	広島県選抜B
中国代表	30－22	中国ユース代表
中国代表	23－22	広島県選抜A
広島県選抜B	28－12	中国ユース代表

（順位）①中国代表3勝②広島県選抜A2勝1敗③広島県選抜B1勝2敗④中国ユース代表3敗

女子

若手選手が著しい成長

イズミハンドボール部監督　松本　義樹

参加決定から出発まで、非常にあわただしい遠征となりましたが、各方面の方々の努力のおかげで無事に全日程を終えられた事をご報告させていただくと共にお礼を申し上げたいと思います。

さて、今度の中国ハンドボールデーに関して説明しておきます。

１９９４年は国際オリンピック委員会の創立１００周年にあたる記念年という事で、ＩＨＦでは６月23日を世界ハンドボールデーと定め、各国ハンドボール協会に多くのハンドボールに関する活動の開催を呼びかけたという事です。その要請に応え、中国ハンドボール協会が男女の国際大会を企画したものであり、普及面を考慮し、男女の各二ケ所開催の各一会場はハンドボール不毛の都市という事でした。私も中国に行って初めて世界ハンドボールデーの存在を知ったという不認識で、恥ずかしい思いもしました。しかし反面、日本のハンドボール関係者で、どれだけの人が認識されていたのか、日本で何かの企画がなされたのだろうかと心配と疑問を感じてしまいました。

女子大会はまず湖南省の郴州（チェンシュウ）という人口約28万人の小都市で、郴州杯として行われました。国際大会の開催は初めてという事と、外国人の来訪も少ないという事で、異常とも言える関心をもって迎えられました。日毎の新聞、テレビの取材に始まり、サイン攻めに会い、選手も度肝を抜かれたり、突然スターになった気分になった者もあり、大変驚かされました。市内観光や、ちょっとしたショッピングにも公安官がピタリとガードされるは、移動はパトカーが先導し、主な交差点でも公安の人が交通規制をしている等、本当に国賓級の扱いを受け、逆に治安の悪い都市なのかと不安を持ってしまう程でした。

大会は日本の他に、韓国の光州市庁チーム、中国ナショナルチーム、中国ジュニアチームのリーグで行われました。韓国と中国ナショナルには大敗しましたが、中国ジュニア戦は、残り２分に２点リードし勝利をものにできるかと思われたのですが、ミスを重ね、結局引き分けに終りました。しかし、このゲームでの日本チームのがんばりは、地元の観客にも高い評価を受け、選手にもよい経験と自信になった事と思います。

さて、もう一つの大会は、広西チワン族自治区の南寧市で、南寧建行杯として開催されました。南寧市は熊本市と友好姉妹都市という事で先日も高校の女子チームが訪中し、また９月には女子チームが来日するとの事でした。この大会は、南寧市が開放都市政策を認可され、施行２周年の祝賀行事の一環として行われ、「建行」とはバックアップした建設銀行の略で、他にも個人企業等の援助も受けていたようです。その中で特筆すべき事は、この大会に優勝した中国ナショナルチームに５万元、広西選抜チームに１万元が地元で経営する華僑の社長より贈られたという事です。ちなみに５万元とは、ナショナルチーム20名分の月収の６ケ月分以上に相当する金額だということでした。この大会は郴州杯に比べると、チームプレー、コンビも少しよくなり、主力の林の負傷などで韓国戦には大敗したが、中国戦で前半20分まで10－10と善戦をするなど、スタミナ不足は見られるものの若い選手の成長が確認されたように思えました。対広西戦も残り４分に１点差まで詰め寄るなど粘りも出て、いい形になって帰国できたと思います。

最後にもう一度、すばらしい経験を与えていただいた広島県協会と関係各位にお礼を申し上げ、今後の飛躍を期したいと思います。

成績

《湖南省大会》

中国代表	42－16	日本
韓国チーム	29－12	中国ジュニア
中国代表	34－17	中国ジュニア
韓国チーム	31－14	日本
日本	22－22	中国ジュニア
韓国チーム	20－19	中国代表

《南寧市大会》

韓国チーム	32－23	広西チーム
中国代表	35－19	日本チーム
中国代表	30－22	広西チーム
韓国チーム	37－13	日本チーム
広西チーム	22－19	日本チーム
中国代表	27－22	韓国チーム

TOPIC
世界オリンピックデーを記念して祝賀会

木野　実

世界オリンピックデーを記念して6月23日、日本オリンピック委員会が主催して、都内ホテルで各スポーツ競技団体の関係者千人が集い、盛大に祝賀会が催された。

日本協会からは井、木野常務理事、市原理事、斉藤事務局長、男女全日本監督、コーチも当日のコーチ会議のあと参加した。

サマランチIOC会長のメッセージも寄せられ、また東京オリンピック30周年を振り返ってビデオ上映、メダリスト遠藤幸雄氏、三宅義信氏、小野清子氏へのインタビューなどがあり、当時のことが再現された。

そしてJOCスポーツ賞、年度賞の表彰があった。陸上世界大会、女子マラソン優勝の浅利伸子選手が最優秀賞を受賞し、柔道での世界大会優勝の田村、園田、中村兄弟が優秀賞の表彰を受け、それぞれ報奨金200万、150万円が渡され、会場がドッと沸いた。

今回の受賞は全員個人種目で、球技を含めて団体競技の表彰がなかったのは残念であった。

またアジア大会の開会式に着用する選手団の服装が披露された。このデザインは芦田淳氏の作品で、黄色(太陽の色)と緑(平和の色)の二色を基本にして、さわやかさを特にイメージしたもので、会場のコーチ、選手からも素晴らしいの声がかかっていて、いよいよアジア大会が近いことを一層印象づけていた。

なお、オリンピックデーを記念してアジアでは、中国ハンドボール協会の招待で、広島県男女一般の選抜チームが中国チームと親善試合を行い、大歓迎を受けた。

男女のアジア大会のメンバーは7月末にも決定されることになっており、全日本チームの合宿もいよいよ激しさを増しており、大きく期待がふくらむところである。

ヨーロッパ遠征報告

収穫あったドイツ強豪チームとの引き分け

男子ナショナルチーム監督
蒲生　晴明

一．はじめに

本年に入り、1月～4月までナショナルチームの強化に専念するために、国内のスケジュールを調整していただき、われわれ強化スタッフとして、誠に感謝するところです。また、国内では、ここ数年国際試合が行われておりませんでしたが、3月には、強化試合として全日本チャレンジマッチ、また5月には95年アイスランドで開催される世界選手権大会東アジア予選を開催していただきました。東アジア予選では、韓国に敗れましたが、中国に勝つことができ、次の第3代表決定戦には、全力を挙げて勝ってきます。この両大会がアジア大会に向け広島で開催されたわけですが、毎回、広島県協会の方々には絶大なるご支援をいただき大変感謝しております。

さて、東アジア予選が終了した直後に、標記遠征に出かけましたので、その報告をいたします。

二．ヨーロッパ遠征について

(1)派遣目的

今回は、この遠征直前に95アイスランド世界選手権東アジア予選が行われ、当然優勝して、弾みをつけて遠征に乗り込みたいところであったが、韓国に続き第2位となった。

したがって、今回の遠征の狙いは、以下の3点とした。

①この敗戦から精神的に立ち直る。

②アジア大会に向けてのチームのまとまりとして、単独チームのごとく行動をとることによる連帯感を引き出すこと。当然チームとしてコンビネーションを含めたゲーム戦術も実戦でテストしていく。

③本年1月～4月の間で実施してきた基本的な技術トレーニングの成果がどの程度実戦で発表できるかをテストする。

(2)現地でのトレーニング、コンディショニング等について

今回は、95世界選手権東アジア予選終了直後に出発し、フランスに到着後、即ゲームという時差対策（7時間の時差）をせずに行ったが、遠征前半は体調が良化せず、ゲームの内容ももう一つであった。しかしながら日がたつにつれ、コンディションが良化し、また外人にも慣れてきたところでは対等にゲームをするところまで体調を戻した。

また、現地でのトレーニングは、一日に1時間～1時間30分程度と充分に時間が取れずに苦労したが、個人的に調整をしながら、コートを使用できる時は、コンビネーションを中心に実戦のための練習をした。

そして、今回も三重県鈴鹿市の回済病院の加藤ドクターの帯同をいただき、選手達の健康管理はもちろんのこと、リハビリまでの細かいご指導を行っていただいた。その結果、個人的にはコンディションを崩すものや大きな怪我もなく帰国することができた。

(3)遠征の総評・課題などについて

1月から3月にかけ基本的技術の反復トレーニングを実施してきたが、実戦でどのようにパフォーマンスできるかが今回の遠征での大きな狙いとしてあった。しかしながら、トレーニングでは満足いくものの、実際のゲームではトレーニングのようにいかずに精神的に迷いが発生する場面が出ていた。特にボールゲームで一番必要な「臨機応変な判断」という面に関して、まだまだ課題が多く、オフェンス・ディフェンスともに基本的な個人の技術力の鍛錬を実施する必要を感じた。

また、今回の遠征はフランスに到着して、即ゲームということであったため、時差対策を充分にできなかった。けれども、選手達は、可能な限りの範囲で自主的に時差対策を行っていた。これも、当たり前のこととは思うが、何回も経験する中でのナショナルプレーヤーとしての成長である。

ゲームについては、戦評で報告するが、フランスでのパリトーナメント初戦、ドイツとのゲームから9試合を実施していった。チームとして、コンディション並びにコンビネーションが整ってくるにしたがって、徐々に調子を上げることができ、最終ドイツにて、昨年度ドイツリーグ1部2位のハメルンと対等に勝負し、引き分けまでのゲームに持ち込んだ。遠征を通して、尻上りに調子を上げ帰国したが、あと2～3試合をしたいと言う気持と意欲を感ずることができた。

次に今後の課題と対策にして、

①ゲーム経験を多く積むこと。特に、観客が入り選手自身に期待がかかったゲームを実施することにより、精神的な面の強化をはかる。

②基本的な技術については、臨機応変な判断力を養成するトレーニングを実施する。特に、オフェンスの展開力、個々人のシュート力の向上が必要である。

これらの課題を9月の世界選手権予選・10月のアジア大会までに鍛錬して行き、本番でチームとしての総合力を発揮できるように今後のスケジュールを大切に実行して行く。

(4)試合内容・戦評・対戦チームについて

別掲。

三．おわりに

今回の遠征について、関係の方々のご支援・ご厚情をいただき誠にありがとうございました。世界選手権東アジア予選では、韓国に敗れましたが、本番で勝つことが恩返しになることと思います。これからの世界ならびにアジアハンドボール界の国際状況は、日に日に変化していくことになると思われますので、いかなる場合についても、チームとしての総合力が発揮できるように

準備をしていくつもりでおります。全国のハンドボールファンが、熱い視線をナショナルチームに向けていただいていることを念頭にして、選手とともにベストを尽くして行きますので、皆様のご支援、ご声援のほどよろしくお願いいたします。

試合内容・戦評・対戦チームの分析

一、ドイツ戦

伝統あるパリトーナメントも第8回を数え、今回は日本・ドイツ・エジプト・フランスの4カ国の参加となった。第1戦は、ハンドボール母国ドイツであった。ドイツは、平均身長でも他の国を大きくリードするくらい大型チームであった。日本は立ち上がりドイツの大型ディフェンスを攻めあぐみ1－5と先手を取られてしまった。その後もドイツは、ポスト・サイドと確率の高いシュートをつなぎ、前半は日本の良いところがまったく出ず5－17と大差で終了。気を取り直して、後半に臨んだ日本だったが、ドイツの高いディフェンスとポスト中心のパワーのオフェンスに攻守ともつけ入ることができなかった。選手達は韓国戦の敗戦ショックとあわせて、時差との戦いであったが、実力を出すところまで行かなかった。

二、フランス戦

第2戦は地元フランスであった。昨日に続いてのゲームで、日本は今一つ調子が出ていない状況であったが、前半は中盤までフローター冨本の活躍などで8－10と食い付いていたが、22分過ぎから日本シュートがフランスGKにセーブされ逆に連続4失点を与えて9－15と離されてしまった。

後半スタート、日本はサイド高木の速攻で10－15としたが、フランスはディフェンスを変化させ、日本のセットオフェンスにゆさぶりをかけてきた。日本はこのディフェンスにとまどい、セットオフェンスでのリズムを崩して、3連続速攻を許してしまった。残り5分の戦いは、日本の6－2としたがトータルでは20－28と8点差でゲーム終了。けれども、明日に向けて少しずつリズムを掴みかけてきた一戦でもあった。

三、エジプト戦

昨年の世界ジュニア選手権で初優勝をしたエジプトとの対戦。日本がエジプトと対戦するのは初めてのことである。身長・体重ともエジプトが優位であり、完全にヨーロッパスタイルの戦法をとっていた。中でも個人的な技術・体力ではヨーロッパ勢を圧倒する程であった。特に2mを超す長身選手が、走・投・跳とも能力的に高く、世界でも屈指のプレーヤーに値するほどであった。

そのエジプトに対して、日本は前半から積極的なDFとOFで対抗し、そのエジプトのOFを守り、速攻で7得点をとるほどリズムを取り戻した。

前半は日本14－13でリードして終了。後半にも立ち上がり岩本のシュートで2点リードとしたが、その後にオフェンスのリズムを崩しエジプトの速攻に会い、5連続失点。途中2点まで詰め寄るところまで追い込んだが、残り5分で連続失点を許し24－33と9点差となった。

四・フランス戦

パリから飛行機で1時間、南フランスのモンペリエに移動し、モンペリエトーナメントに出場した。当初はエジプトが参加することになっていたが、イスラエルが出場するため、キャンセル。急遽代替にフランスBが出場した。

日本はフランスBチーム（フランスナショナル予備軍）と初戦で対戦。前半は時差にも慣れてきた日本が終始リズムと流れを摑み、思いどおりの展開で12－8と4点リードで終了。

後半スタート、日本は首藤のカットイン、田中茂のサイドで14－8と6点のリードをした。しかしながら、必死のDFで追い上げるフランスに対して、余裕を持ってOFができず、オフェンスでの連続ミスが発生した日本は4連続失点で14－12と詰め寄られ、残り3分の勝負となったが、時間切れで引き分け。後半の勝負どころでのミス発生が大きな課題となった。

五、イスラエル戦

過去、数度の対戦があったが、久し振りにイスラエルとの一戦であった。

ゲームの流れが速攻になり、前半だけで20回の攻撃回数しかなく、シュートミス・ボンミスをなくすことが大切なゲームであった。前半は日本もイスラエルも確率の高いOFで12－11と日本がリードして終了した。

後半に入るとイスラエルはポストとミドルを中心のOFで連続6点を獲得して優位に立ちリズムを摑んだ。日本もDFからの連続速攻で1点差に戻すが、後半勝負どころでのOFミスが痛手になり20－25と敗戦。緊迫したゲーム展開の中で、選手達は1回のOFの大切さを肌で感じた一戦であった。

六、フランス戦

今遠征2度目のフランス戦であったが、日本は立ち上がりからフランスに先行されるものの、何度も追いつき同点にしていった。2度目とあってヨーロッパ勢に慣れてきた日本は、ゲームの勝負どころでも実力が出はじめ、フランスのOFミスを発生させ、速攻からの得点で12－14と追い込んで前半終了。

後半に入って日本はミスが少なくなり、2点差のまま残り10分となった。ここで、フランスはWトップのディフェンスにチェンジし、日本のリズムを崩しにかかった。日本はこのディフェンスを攻めあぐみ、逆に失点を連続して許し22－27と5点差で敗退した。このフランスでの6試合で、状況の変化に対応することが課題として残った。けれども、時差もとれヨーロッパ勢に慣れてきたことで日本としてのゲームができるようになったことは明るい材料であった。

七、BAD SCHWARTAU戦

フランスで6試合を実施してことにより、時差とヨーロッパ勢に対して慣れてきた。BAD SCHWARTAUは昨年も対戦しており（27－33）、本年の対戦で2度目となった。BAD SCHWARTAUはドイツ1部リーグ11位の強敵であった。日本は立ち上がりが非常に悪く4－9と5点リードを許してしまい、苦しい展開となったが、その後OFにミスが少なくなり一進一退の攻防の末、11－15で前半を終了。

後半に入り、本来の日本の力が出て10分過ぎ19－19の同点に追いつき、更に激しい攻防が続いた。残り5分、24－26と2点差の攻防からBAD SCHWARTAUはパワーでポイントをもぎ取り、結局25－29で日

本は敗れた。前半の立ち上がりの失点が最後までひびいた。

八．VFL VERDEN戦

ドイツ3部リーグのVERDENは3部といっても、ポーランドナショナルチームの2m選手が加入しており、補強しているチーム。本来はドイツ2部リーグ昇格を狙っているチームであった。日本は前半15分間では8－6と2点のリードと確率の高いOFでリズムを掴み、前半の中盤以降は一方的な展開となって、相手を1点におさえた。14－7と7点リードで後半に入ったが、後半もペースにのった日本が確実に加点し30－18と大勝した。このゲーム終盤に日本のエース中山が両ヒザの手術後初めて出場し、復帰が近いことを実証した。

九．VFL HAMELN戦

今回遠征の最終試合は、旧東ドイツナショナル選手6名が入っているHAMELN、昨年ドイツ1部リーグ2位の実績であった。日本は前半スタート4－7の劣勢から、残り10分間、良く応戦し、好調魚住の活躍もあり、12－11と逆転して前半を終了。

後半に入りリズムの良い日本は余裕のあるゲーム運びから加点し、首藤の好リードで残り10分、23－18と5点をリードした。対するHAMELNは変則Wトップをかけてきたところで、日本はOFのリズムが崩れ、連続6失点で残り3分逆転されてしまった。しかし、ディフェンスがその後良く守り、HAMELNのゴールキーパーの7MTシュートを日本ゴールキーパー橋本が好守して、そのままダイレクトシュートがゴールイン、結局24－24で引き分けた。

結果としてドイツ1部リーグ2位に引き分けたが、遠征当初は精神面・コンディションとも良い状態ではなかったが、良くここまで立ち直ってきた。あと数試合したいと言う意欲と気持を感ずることができたことは、今後に対して明るい材料であった。



プレイの正確さを追及したい

㈱中村荷役　井上　耕一

今回、5月10日から30日の20日間の日程で、フランス、ドイツでの強化合宿に参加させていただきました。フランスでは二つの大会に出場して、計6試合を行い、またドイツではクラブチームとの親善試合を3試合行いました。遠征の最初の頃は、5月8日に広島で行われた世界選手権の予選での韓国戦の敗戦が尾を引いてかチーム自体あまり良い出来ではなかった。しかし、試合を重ねる度に目前の相手を倒す事に集中出来るようになり、試合をする度にチームの状態は上がって行きました。

そんな中で私は、フランスの国際試合の6試合には出場する事が出来なかったが、ドイツでの親善試合の2試合に出場させていただきました。結果は2試合ともとても納得いく出来ではなく、改めて自分の課題が明確になった試合でした。特にヴェルデン選抜との試合では、大差で全日本が勝っているところに出場したのだが、単純なパスミスを短時間の中で2本もしてしまい、自分自身でも情けなく思いました。しかし今遠征中の自分の目標であったサイドシュートの阻止率アップは、この試合では成果が出て、唯一満足いくところでした。

今遠征に参加するまでヨーロッパのナショナルチームを見た事がなかったので、初戦のドイツには高さ、パワーで圧倒されました。大きいからプレーは雑ではないのかと思ったのですが、決してそんな事はなく、特にパス・キャッチ・シュートのイージーミスがほとんどないのには驚きました。日本は身体面では対抗出来ないのだから、スピード・プレイの正確さ・判断力で抜き出なければ勝利するのは難しいと感じました。遠征後半のドイツでの試合は日本のミスが少なくなった事が、好ゲームの要因の一つだと言えます。

アジアのチャンピオンになる為には、私自身はプレイの正確さを追及していきます。

フランスカップについて

大崎電気　魚住　和彦

ヨーロッパ最初の遠征先フランスでは、まずフランスカップに参加した。2年前にも同じ大会に参加したが、その時は、国民のハンドボールに対する関心度はさほど高くなかったように思えた。しかし、この2年間で大きく変化していた。オリンピック、世界選手権の活躍で、世界のトップチームの仲間入りを果たしたことが、好影響をもたらし、一気に関心度が高くなっていた。

今大会の観客動員数、応援の華やかさは、2年前のそれとは比べものにならなかった。中でも、低年令層の子供たちが応援する姿が印象的だった。後で聞いた話しだが、この大会では子供たちを無料招待しているとのことだった。その子供たちは、何十キロも離れた街からバスで数時間かけて観戦に来るそうである。小さい頃からハンドボールに接し、ナショナル級のプレーを生で観戦できる、そういう環境にある子供たちが少し羨ましく思えた。

そんな子供たちを含めた大観衆の中でのゲーム前セレモニー（選手紹介）が、またすごいのである。突然、館内の照明が消え、真っ暗闇になる。続いてアップテンポなミ

ユージックが鳴り響いたかと思うと、今度はコートサイドの選手にスポットライトが当たる。名前をコールされた選手は、スポットライトを浴びながら拍手の渦の中、コート中央へと走るのである。ここまでやられて気持が盛り上がらないわけがない。是非、今度は日本でスポットライトを浴びながら入場したいものである。

こんな心憎い演出で盛り上がって臨んだ肝心のゲームであるが、初戦は強豪ドイツと対戦した。広島での韓国戦で受けた高い一線DFに対するマイナスイメージが後を引いてしまい、ドイツの一線もDFに対しても、攻撃の糸口がつかめず大敗してしまった。

開き直って臨んだ第2戦は、地元フランスとの対戦となった。波に乗っているフランス相手に、前半途中までは互角の戦いを見せたものの〝引き離されそうになった時の踏ん張り〟がなく、そのままズルズルと行ってしまい敗れてしまった。

そして迎えた最終戦。こちらも世界ジュニアで優勝するなど、今波に乗っているエジプトとの対戦となった。独特のリズムのボール回しに加え、すごいとしか言いようのないステップシュートを持ったエジプトに、前半は互角以上の戦いを見せ、1点リードで折り返した。後半も途中までは一進一退のゲームが続いたが、前日のフランス戦同様、一度悪くなってしまうと踏ん張りがきかず、終わってみれば9点差の大敗となってしまった。

結果的には、全敗という戦績で終わったが、尻上りに良くなっていた。今回の遠征の目標であった①前を狙う、②プレーに連続性を持たせる、ということに関しても、少しずつではあるが、プレーに現われる様になった。

そうした中、今大会で新たに課題として残った〝引き離されそうになった時の踏ん張り〟ということを加えて、次の大会へと進んだ。

モンペリエ国際大会について

大同特殊鋼　末岡　政広

パリで行われた3試合は、尻上りに良くなってきているものの、まだ全日本の持っている力を半分も出していなかった。そういった不完全燃焼の試合内容であったので、モンペリエ国際大会では、結果を恐れず、思いっきりプレーをすることにした。

第1試合のフランスBとの試合は、前半から全日本ペースで試合を運び、そのままリードして前半を終了した。しかし、後半になって確実に得点できるケースでミスを犯し、引き離せる時に離せなかったので、結局引き分けになった。この試合での反省として、相手チームがそれほど強いと感じられなかったので、簡単に勝てると思い込んだところが悪かった。

第2試合は、イスラエルとの試合である。イスラエルの実力は、前日フランスに引き分けるくらいのチームである。この試合も前半は互角で、後半に入っていいところでペナルティーを決めることができず、ペースを乱し、結局試合終了間際で力尽きて敗れた。

次のフランス戦が、今回の公式国際試合としては最後となるので、どうしても1勝したい全日本は、ミーティングで自分の役割を再度明確にして試合に臨んだ。結果は5点差で敗れたものの、世界2位のチームを最後まで苦しめ、自分達がやろうとする事が試合に出たと思う。

最後に、この大会で学んだことは、フランスチーム一人一人が世界2位であるプライドを持ってプレイしていたところである。どんなに苦しい状況におかれても、チームが一つになって勝つもしくは引き分けまで持っていくところは、一人一人が負けてはいけないと強い意志を持っているからであり、今の全日本はそういった意味では精神的に弱いと思う。各々が強くならなければ、チーム全体のレベルアップにもつながらない。精神面で強くなるには、やはり練習を積み重ね、基本技術を習得して自信をつけるしかないと思うので、これからの練習に対して一つ一つのプレーを極めていく姿勢で練習に取り組みたいと思います。

ドイツにて思ったこと

湧永製薬　中山　剛

フランスでの6試合で、あまり良い結果を出せないままドイツ入りをした訳ですが、チーム全体としてのムードは、そんなに悪いものではありませんでした。各個人が、自分が何をすべきか、チームとして勝つために、どの様な事をやるのか、という事について、口に出して話し、具体的なところまでみんなで話し合う事で、トレーニングやゲームに対して、集中できていたからです。

フランスで出し切れなかったものを、このドイツの残り3試合で出すために、チームとして結果を出すために、みんなが努力していました。自分としても、順調に膝の方が回復しており、チームのトレーニングにも7～8割程度参加出来る様になり、久し振りにユニフォームを着て、ベンチに座りました。緊張するというより、やっとコートに立てる、試合に出られるという嬉しさでいっぱいでした。

ドイツでの2戦目に自分の出番がやってきました。前半でほぼゲームが決まっていたので、後半残りの10分くらいで自分に声がかかった時は、今の自分の状態を知る意味で、のびのびとゲームを楽しもうという気持でコートに立ちました。それが良かったのか、3得点、2アシストと、少しではあるがチームに貢献出来ました。自分としてもある程度動ける感じが実感としてつかめてきました。ですがプレーをしていた時間はほんの少しなので、これから、もう少しトレーニングを積んで、早くスタートからゲームに出れる体を作りたいと思っています。

これから合宿等でしっかりトレーニングを積み、目前に迫ってきた大会で頂点に立つこと、最終目標であるオリンピック出場へ向けて努力していくつもりです。

スウェーデンが優勝

欧州選手権大会観戦記

企画委員　飯田　信行

第11回ヨーロッパ選手権大会は、6月3日から12日まで、ポルトガルのポルト市とリスボン市で12ケ国を集めて開催された。

第1試合のドイツ対ベラルーシ（白ロシア）は大変エキサイティングな内容で、前半12―10ながらも、後半は11―14とベラルーシが逆転で24―23と勝利を得た。このカードは5月27日にハンブルグにおいて独・仏・デンマーク・白ロシアと4ケ国の対戦があり、観戦する機会があった。ドイツが優勝した試合でもあったが、地元でのゲームと第三国のゲームでは、やはり若干の違いがある事は否めない。また今回はスペインへ出稼ぎに行っていたJAKIMOVICH（190cm／100kg／右）が逆フローターながら6ゴール、5アシストと活躍をした。

予選リーグA組は他にロシア、フランス、クロアチア、ルーマニアなど、優勝候補がひしめき合っていた。

決勝はセミファイナルでクロアチアを3点という際どい点数で下したスウェーデンと、デンマークを下したロシアの間で行われた。

連日、真夏日の中、熱戦が繰り広げられ、多くの観衆にハンドボールの素晴らしさ、すごさ、美しさを見せつけ、「芸術だ！」と言われるほど感動のプレーの連続で大いに盛り上がりをみせた。

スウェーデンは昨年のMVPマグヌス、アンダーソンからのポストマン、カレンへのパスが難なく決まりスタートしたが、あっという間に前半9点差をつけ、思いがけず大差の13点差で優勝を飾った。

上位のチームはどこが勝ってもおかしくない程実力が接近し、見ごたえのあるプレーを展開した。

試合結果は以下の通り。

◎セミファイナル

ロシア 29（14―8／15―12）20 デンマーク

スウェーデン 24（13―7／11―14）21 クロアチア

◎3・4位決定戦

クロアチア 24（12―13／12―10）23 デンマーク

◎決勝戦

スウェーデン 34（18―9／16―12）21 ロシア

◆順位　①スウェーデン②ロシア③クロアチア④デンマーク⑤スペイン⑥フランス⑦ハンガリー⑧白ロシア⑨ドイツ⑩スベロニア⑪ルーマニア⑫ポルトガル

国際情報

世界の競技力ランキング

別表を見てもらいたい。これは1993年のIHFの主要大会4試合（世界男女選手権、世界男女ジュニア選手権）の成績である。最後に示したポイントは総合的な競技力のランクを示すものであり、各国の4種別の順位を合計したものである。13位以下はすべてポイント13にして合計してある。これはIHF／CCM（組織と競技の委員会）が調査し、12位まで発表したものに加えて、各大会に出場した全ての国の順位とポイントを表にしたものである。

読者の中には世界大会の情報に接する機会のない方もおられると思います。ましてや総合的にどの国がハンドボールが強いのかは分かるものではない。この表から、各国の競技力の現状が伝わってくる。トップがロシアで、旧ソ連崩壊後も競技力は衰えを知らない。男子、ジュニア女子と2種別に優勝している。そして2位がデンマークである。選手権での優勝はないが、強豪ひしめくヨーロッパの中にあって4種別とも出場し、世界男子を除いて上位に位置づいている。ロシア、デンマークはジュニアでもすばらしい成績を残しており、この勢いはまだまだ続くことが予測される。またスウェーデンやルーマニアもそれに続いている。

オリンピック2連覇の韓国も世界選手権レベルで見るとベストテンに辛くも入るに過ぎない。しかし、ヨーロッパを除く国から4種別代表を送っている国は他に見当たらず（ヨーロッパを入れても6か国に過ぎない）、女子ジュニアでは堂々の3位を確保している。このメンバーは来年のあるいは再来年のアトランタオリンピックを見据えてのものであろうか。

ヨーロッパではスカンジナビア諸国（アイスランド、デンマーク、スウェーデン、フィンランド、ノルウェーの5か国）の躍進が目立つ。1993年の世界選手権の開催地は男女いずれもがスカンジナビアであり（スウェーデン、ノルウェー）、1995年の男子はアイスランドで開催される。室内ハンドボールの伝統国ではあるが、ますます関心と強化が進み、現在ハンドボールでもっとも勢いのある地域と見てよいであろう。

ヨーロッパ以外ではエジプトの躍進が目立つ。開催国とはいえジュニアで優勝できる勢いは、ハンドボールに対するエジプトの並々ならないものを感じさせる。またスウェーデンでのエジプトの活躍は関係者の注目を浴びた。エジプトは1997年世界男子選手権大会にも日本と共に立候補をしている。

この表でお分かりのとおり開催国は4か国全てが3位以内に入賞している。地元の利があるとはいえ、大会を契機として強化を進める実態がよく理解できる。

旧ソ連から新しく独立したベラルーシ、ウクライナ、リトアニアが登場しているが、ベラルーシ、ウクライナはジュニア女子で6、7位と好成績をおさめており、今後国の状況が整えば、全ての種別に登場し、世界の強国の一員になることが予想される。

なお1938年から1993年

の世界のランキングを同様な方法でＩＨＦ／ＣＣＭが調査したものがある。参考までに掲載したい。全てヨーロッパの強国の中にあって韓国のみが他大陸からベスト10入りしているのは立派としか言い様がない。

順位	国	ポイント
1	ロシア／ソ連	175
2	ドイツ／ＦＲＧ／ＤＤＲ	241
3	ユーゴスラビア	263
4	ルーマニア	388
5/6	スウェーデン	402
5/6	デンマーク	402
7	チェコ／ＵＣＳ	428
8	ハンガリー	433
9	ポーランド	506
10	大韓民国	569
11	スペイン	576
12	ノルウェー	584

1993年世界の競技力のランキング

		世界選手権	世界選手権女子	ジュニア世界男子	ジュニア世界女子	ポイント
1	ロシア	1	5	4	1	11
2	デンマーク	9	2	2	4	17
3	スウェーデン	3	6	5	9	23
4	ルーマニア	10	4	8	5	27
5	ドイツ	6	1	—	10	30
6	ノルウェー	13	3	7	—	36
7	アイスランド	8	—	3	—	37
7	ハンガリー	11	7	6	—	37
9	エジプト	12	—	1	—	39
10	スペイン	5	15	9	—	40
10	大韓民国	15	11	15	3	40
12	フランス	2	—	—	—	41
12	ブルガリア	—	—	—	2	41
14	ポーランド	—	10	12	8	43
15	オーストリア	14	8	14	11	45
15	ベラルーシ	—	—	—	6	45
17	スイス	4	—	—	—	46
17	チェコ	7	—	—	—	46
17	ウクライナ	—	—	—	7	46
20	UCS	—	9	—	—	48
21	ポルトガル	—	—	10	—	49
22	アルゼンチン	—	—	11	—	50
23	アメリカ	16	12	—	—	51
23	日本	—	—	—	12	51
25	リトアニア	—	13	—	—	52
25	中華人民共和国	—	14	—	15	52
25	アンゴラ	—	16	—	—	52
25	アルジェリア	—	—	13	16	52
25	ギリシャ	—	—	16	—	52
25	ブラジル	—	—	—	13	52
25	朝鮮民主主義人民共和国	—	—	—	14	52

指導者委員会だより

C級コーチ（ハンドボール）合格者

この度、日本体育協会から平成5年度の合格者が発表された。

ハンドボール競技は次の三名の方が合格されました。おめでとうございます。

宇榮原幸政（中部大学）
奥田　新治（湧永製薬・ジュニアコーチ）
猿山美代子（栃木南高校）

平成6年度ハンドボールC級コーチ養成講習会受講者

平成6年度のC級コーチ養成講習会はハンドボール、陸上、サッカー、漕艇外16種目である。

ハンドボール競技も、各都道府県のご理解と各ブロック及び都道府県の指導者担当の適切なご推薦を頂き、ハンドボール競技としては51名の名簿を日本体育協会指導者育成課に提出いたしました。

各競技団体とも、特定の大会に対する指導者の資格取得の義務づけが始まりだしたことや、指導者資格取得の意義の理解が広まったために各競技とも受講者が多く、40名を超える競技団体に対しては調整がなされる模様である。

養成講習会は9月から共通教科のスクーリングが始まり、通信教科は10月から12月までの3ケ月間行われる。専門教科であるハンドボールの養成講習会は来年の3月14日(火)～19日(日)東京オリンピック記念青少年総合センターにて行われる。

連載9

ハンドボールの指導法

指導委員会委員長　大西　武三

オリンピックソリダリティ講習会から

今回の指導法は6月の下旬から7月の初めにかけて男女ナショナルチームをデモンストレイターとして開催されたオリンピックソリダリティ講習会から述べたい。



講習会の意義

世界的な指導者であるデンマークのアラン・ルント氏を迎えての講習会が終ったが、大変に有意義な講習会であった。今迄も世界のトップ指導者を何人も招いて講習会を開催しているが、今回は特に有意義であった。受講者は日本のトップレベルを指導対象としているものから低年令層を教えているものまで様々であったが、全ての指導者にとって何かを感じさせる講習会であった。コーチの指導能力を高める方法の一つに研修会やコーチ会議にでるというものがあるが、今回も多数の指導者に参加していただきました。この講習会を契機として日本のハンドボール指導のレベルが向上すること間違いないと思っております。どんなシンポジウムや講習会でも個人の要求にぴったりと合う内容のものはそう望めるものではない。ただ、このような講習会から自己のコーチングやハンドボールフィロソフィーの確立に向けて十分に刺激を与えたものと思います。今後とも指導者の皆様方において、このような講習会に積極的に参加され、勝負だけでなくこのすばらしいハンドボールの世界を、一つの文化として共通に語れるようになりたいものだと思います。

ルント氏の略歴

ルント氏は大学まではサッカーをしていた。大学に入ってスポーツ教師の資格を取っている。スポーツ種目は広く修得するが、その中でも専門的な種目としてハンドボールとサッカーを選んで修得した。その後、ハンドボール連盟の開催するハンドボールコーチの資格取得のための講習会を4つのレベルに渡って修了し、クラブのコーチになっている。連盟の開催する講習会のレベルは、年齢別に2歳刻みで12のレベルに別れており、ある年齢の資格を取るためには下のレベルから順番に取っていかなければならない。従ってトップレベルのコーチになるためには、この12のレベルの講習会を全てパスしなければならない。指導体制の一貫化が計れるようになっている。ルント氏は大学に行っていたために最後の4つのレベルだけでよかったそうである。日本では、選手としてハンドボールをやっていなかった者がナショナルコーチにまでなることは考えられないが、デンマークでは指導者としての資格取得がその道を開いている。



コーチ経歴としては女子ナショナルチームの監督、ステルネン、GOGクラブ監督、1988・1990年はサウジアラビアの監督をして北京アジア大会では3位に入賞させている。

職業としては現在、学校スポーツ連盟の理事長をしており、国家から給料をもらっている。6年前まではオデンセ大学の教授であった。

現在のハンドボール関係の役職としては、GOGクラブの顧問であり、バルセロナの会議でIHFのCCMのメンバーに選出されている。GOGクラブはハンドボールのチームが32チームある大きなクラブで、約10人が一つのチームとして指導者が二人ずつついている。蒲生監督の率いるナショナルチームがお世話になっており、今年も女子ナショナルチームがお世話になる予定である。

人柄

私は8日間、ルント氏とご一緒

させていただいたが、何と言っても人柄がすばらしい。昨年、ジュセルドルフで開催されたＩＨＦコーチシンポジウムに参加して初めてお会いしたが、温かい人柄で、日本に招請したい気持を強く持っていました。幸いアジア担当のＣＣＭメンバーであり招聘が実現した。

実際の講習では、実にエネルギッシュで、その情熱と的確なコーチングには感心させられた。ユーモア、叱咤激励、雰囲気を盛り上げる掛け声等、コーチャーとしての適性の実例を見る思いであった。

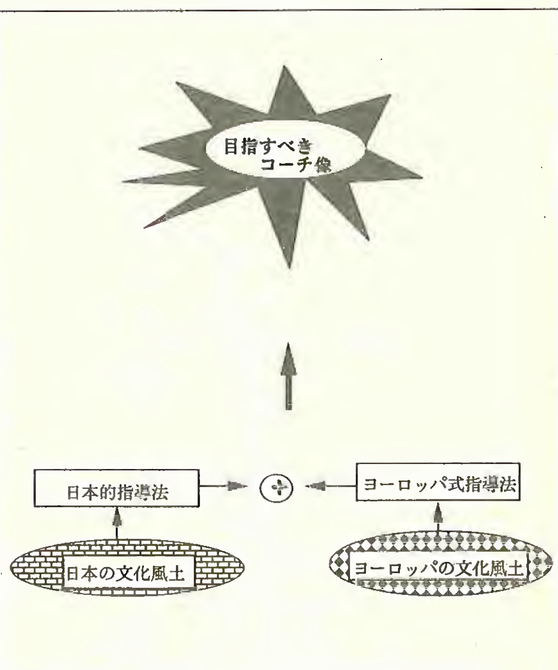
デンマークという背景



私にとってハンドボールとデンマークの結び付きは、ハンドボールの歴史における発祥論争である。ハンドボールの発祥はドイツと決まり文句となっていた。20数年前であろうか、大阪の馬場太郎先生がハンドボールの発祥の地はデンマークであると学会発表され、驚かされたわけであるが、19世紀の初頭、ヨーロッパのあちらこちらでハンドボールに似たボールゲームが行われており、正式な発祥国の定説は無いが、1906年のルールブックがデンマークに存在することは発祥国としての一つの手掛かりである。公式競技として世界に発展の足掛りを作り、普及に力を注いだのはドイツであることは現在にあっても確かなことである。

ところで、デンマークにおけるハンドボールの位置はサッカーに継ぐ第2のスポーツである。ルント氏は言っている。「ハンドボールはデンマークにおいては文化である。誰もが日常に会話する話題である」と。デンマークにおいては、日本での野球や相撲のようにだれもが話すスポーツであるということである。

競技力の面から見ても、今回の機関誌「国際情報の世界の競技力ランク」で分かるように1993年は2位に位置する強豪である。また1993年までの55年間でも5位にランクされる国である。人口は名古屋より少ない500万人でこれだけの成果をだせるのであるから、ハンドボールに対する背景は大きく、豊かであることは予測できたが、ルント氏の今回の講習会で明確にそのことは確認できた。



ルント氏の指導の特長

日本は体育学校でスポーツを学んできた。またその延長上にある部活動を通してスポーツを学んできた。どちらも教育の一環であり、スポーツを通しての教育に重点がおかれ、現在では変わってきているがスポーツそのものを学ぶことはその次に置かれる傾向にある。先生もスポーツそのものを本格的に学んできたわけではない。教員の免状を取得する際の実技の単位は最低5単位ですむ。これで本格的なスポーツの指導の方法が修得できるものではない。後は自分が課外活動で修得した経験を指導に生かしていくことになる。それに対してルント氏の指導は、前述した通り大学や連盟の講習会でハンドボールそのものの指導法を学ぶことになる。日本の部活動は、経済面からはボランティア活動に近いが、日本の部活動に変わるものがヨーロッパでは地域のクラブである。そこでの指導者というのは、クラブから報酬をもらう以上、指導力が問われることになる。また子供も指導者がいやならクラブを止め、よそのクラブに移ったりすることが可能である。ルント氏は言っていたが、子供の指導で大事なことは指導が終ったときに子供が喜んで、笑顔で家に帰ってくれることである。そうすれば親にもクラブでの楽しい出来事を話してくれる。ヨーロッパではハンドボールを年令に応じて、専門的に教えることが要求され、その能力が問われる訳である。

「日本は選手の規律(decipline)がすばらしい。ただ戦術がない」とルントは言っている。2年間、サウジアラビアの指導をしているときに日本のチームを分析し、またコート外での日本選手に接してのルントの感想である。この言葉は日本的指導法の長所と欠点を簡潔に言い当てている。

日本の指導法は人格を磨くのに適しており、これは大きな長所と言えるが、スポーツそのものを教えるにはまだ不十分であり、いわば経験主義的なものといえる。

そこで、今後の日本の指導者像としては、是非とも日本的指導法の長所を生かしながら、ヨーロッパ的なスポーツそのものを専門的に指導できるという長所を加えていかなければならない。

この現実に向けての第一歩が体育協会とハンドボール協会で共催する公認スポーツ指導者制度である。この制度の完成度はまだ不十分かも知れないが、皆様の理解の元に全ての指導者がこの資格を取得され、専門的なハンドボール指

導の道が開かれる事を願っている。

ハンドボールのフィロソフィー

ルント氏はハンドボールのゲームはどのような構造をしているのか、これを知っていなければ良いプランは作ることが出来ないと言っている。デンマークでのハンドボールのフィロソフィーとして話してくれたものが次のようなものである。このフィロソフィーに基ずいてゲームやトレーニングが行われる。以下、練習の内容を述べてみる。

ハンドボールは何かと考えた時、ゲームの局面を分析してみようと考えた。昔の教本には4つの局面があると書かれている。

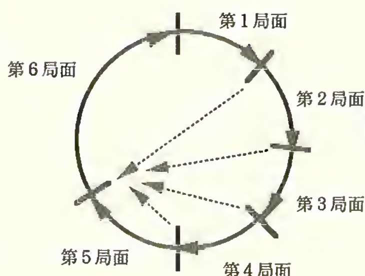
◇ゲームの局面

1 セットオフェンス
2 一人での速攻
3 二人以上の速攻
4 ディフェンス

選手：6人のCP＋一人のGK
／5人の交代者

1988年、この原理は間違っており、20年前の原理に過ぎないことが分かった。

ハンドボールはサークル、あるいは車輪で表わすことが出来る。



◇第一局面 インターセプト／ブレークアウト
(interception／breakimg out)

ハンドボールをする者にとってはボールが最も好きであり、また最も重要である。ハンドボールは14人でやるが、ボールを持っているのは一人である。このボールに対するプレイを教える時、反則して止めるのは最も簡単です。ボールを反則しないで取ることは大変難しいことです。ボールを取る。ボールを取ったらすぐに速攻すると言うのが原則です。

ゴールキーパーはシュートをセーブすることがインターセプトにあたる。すぐにパスアウトしなければなりません。このことから6＋1と言う考えは間違っており、7人のプレイヤーが同等であることが分かります。

◇第二局面 攻め上り
(moving up the court：bounce／pass)

ディフェンスから攻撃に切り替わり、攻め込んでいる局面である。

○この局面では非常にスピードが大事である。

○1人、2人で速攻するのでなく、7人全員で速攻するのが大事であり、厚みと幅が大事である。初心者にはドリブルを教えなければならない。子供には走りながらのパスは難しい。立ったままのパスは使いますか。使わないのになぜ練習するのですか。向かい合ったままのパスも見られません。走りながらのパスやドリブルが必要になってくる。

◇第三局面 シュートゾーンへの接近(Arriving into shooting zorn)

パスをして9mラインについてパスかシュートの判断をしなければならない。この局面は非常に重要である。この段階では防御はまだ組織されていない状態である。4人しか返っていないかもしれない。数的に有利な状況が出来ている。またディフェンスに戻るのに平行移動して返っているわけでなく、クロスしたりしてスペースが出来ている。そこを攻めなければならない。

◇第四局面 組織攻撃
(Organized attack)

皆さんはこの練習に多くの時間を費やしませんか。1：1、2：1に時間を多くさいていませんか。日本の指導書はここに重点がおかれていませんか。

◇第五局面
(return into deferense)

10年前までいろいろな練習があったが、1988年ソウルオリンピックでは、韓国やロシアの速攻をしているのに、防御法がわからずただ見ているだけであった。速攻に対するディフェンスを教えた方がよい。

◇第六局面 組織ディフェンス
(Organaized defense)

第1、3、5がデンマークにおける新しい局面である。いままであった教科書は全て捨ててしまいました。

指導する際、6つの局面のトレーニングを考えなければならない。各々の局面を練習しなければならないが、全てを毎日するのではなく、ある期間の内に全ての局面の練習をしスタートする。

通常、ゲームは70回から80回の攻撃回数がある。それぞれ45回ずつボールを持つことが出来る。子供の場合は60～70回の攻撃回数があり、各々のチームで30～35回の攻撃回数がある。これらの攻撃回数のうち一回一回に6つの局面が全て含まれる訳ではない。例えば、第二局面でインターセプトされると、第六局面に返らなければならない。中間の局面はスキップすることになる。考えられることは40回全て必ずインターセプトする状況になっていると言うことである。デンマーク、エジプト、マレーシアでも多くの指導者は机上で練習プランを立てる。80パーセントはボールを持っている状況での練習を考えます。デンマークではどうしてインターセプトするかが重要である。そこで韓国のハンドボールの哲学をフォローすることになる。韓国は失点を怖がらず、得点をすることに力を注ぐ。しかし、我々は韓国に勝ちたいので、戻ってくる最中（第五局面）にも力を注ぐことにした。ロシア、韓国、スウェーデンは30パーセントは速攻であることが分かった。速攻の防御に重点をおくことが重要である。ラルフ・ニコルセン（デンマークの監督）がディフェンスに戻る時のディフェンス法を考えだした。

もう一つ、重要な局面として第三局面がある。ロシアは2waveの速攻を考えだした（これは二次的な組織的な速攻）。我々は3waveの速攻を考えだした。ゴールキーパーがインターセプトしたら、全員でパスをして攻め上がっていく。ディフェンスが組織されていない時に攻め込む。これをするためにはGKを組み込まなければならない。このことによって第三waveの速攻を組み立てることが出来る。（つづく）



ドーピング・コントロールについて

順天堂浦安病院内科（健康スポーツ診療科）　坂本　静男

■はじめに

ドーピングとは、考え方によっては大昔より行われていたことである。が、狩猟や戦争の際の、疲労回復や恐怖軽減のために植物の葉、茎、根などを、直接にあるいは精製して服用していたとのことである。

19世紀末になると、水泳あるいは自転車競技などで、ある種の薬物が服用していたとの記録が残っているとのことである。その後、そのような薬物使用がスポーツ界全体に広まり、その結果、薬物使用による事故（突然死も含めて）が頻発するようになってきた。それゆえに1960年頃からヨーロッパを中心に各国にドーピング委員会が作られるようになり、ドーピング規制に関して論議されるようになった。オリンピック大会では、1968年（メキシコ大会）よりドーピング・コントロールが実施されるようになった。

ドーピングの定義は、1963年1月のヨーロッパ・スポーツ評議会においては「生理的に存在しない物質を異常な方法で投与または使用した場合、あるいは生理的物質でも異常な方法で投与または使用し、量的に異常である場合を、**ドーピング**という。また心理的手段として、催眠術を行った場合を含む」となっている（ただし心理的手段に関しては証明が困難なために、現在は削除されている）。また1963年11月のマドリッドの会議においては「治療のために物質を与えた場合でも、その物質の性質、量などが競技能力を高めると考えられる場合には、ドーピングと認める。麻薬、覚醒アミン、ストリキニン等のアルカロイド、エフェドリン、強壮剤、呼吸興奮剤、ある種のホルモン等をドープとする」となっている。その後、現在まで幾種類もの薬物が加えられて、多くの薬物がIOC医事委員会より提出され、ドーピングリストに挙げられている。

ドーピングコントロールの目的は、薬物使用による危険な副作用（突然死を含めて）を防ぎ、選手によって薬物の使用、未使用による不公平さをなくすことにある。

■ドーピングの分類および方法のリストに関して

IOCよりドーピングの分類および方法のリストが提示されている。ドーピング薬物には、①興奮剤、②麻薬性鎮痛剤、③蛋白同化ステロイド、④β－ブロッカー、⑤利尿剤、⑥ペプチドホルモン及び類似物が挙げられている。またドーピング方法としては、①血液ドーピング、②薬理学的・化学的・物理学的不正操作が禁止されている。さらに一定の規制をする薬物として、①アルコール、②マリファナ、③局所麻酔薬、④コロチコステロイドが挙げられている。

現在、最も注意されているのは、**蛋白同化ステロイド**である。ソウル・オリンピック大会で、100m走においてベン・ジョンソン選手が金メダルを剥奪された原因となった使用薬物である。それ以前にも重量挙げなど筋パワーアップが競技力につながる種目の選手で使用され、ドーピング違反に問われ、失格させられた原因薬物が、蛋白同化ステロイドである。

体重制競技種目で減量目的に使用されている薬物として、**利尿剤**がある。急激な減量効果があるために競技直前に使用して、熱中症を起こして問題となっている。国内でも問題になったことがあり、注意すべき薬物である。

日本選手でこれまでにドーピング違反に問われた多くの原因は、**感冒薬（風邪薬）**の不注意な使用である。特に市販されている感冒薬の多くには**カフェイン**や**エフェドリン**が含まれており、これらは禁止薬物の一つである興奮剤に相当する。また感冒に対して、あるいは疲労回復の目的に使用される**漢方薬**の多くにもこれらの薬物が含まれており、漢方薬の服用でドーピング違反に問われる可能性が高い。

沈痛目的、抗炎症目的などで使用される**局所麻酔薬**や**コルチコステロイド**の局所注射や関節内注射は許可申告制なので、その使用には注意が必要である。

いずれにしろ選手が何らかの疾患にかかった場合には、**スポーツドクターに相談して治療方針を決定していくことが**、ドーピング対策の上でも重要なことである。

■ドーピング・コントロールの手順（ソウル・オリンピック組織委員会リーフレットよりの抜粋）

①選手にドーピング・コントロール実施の通告－承諾－署名
②ドーピング・コントロール・ステーションでの登録
③待機－飲物を飲みながら
④瓶（AあるいはB）を選択する
⑤選択した瓶（たとえばA）に尿を入れる
⑥選択しなかった方の瓶（B）にも尿を分配する
⑦瓶を入れるバッグを選択する
⑧シールとラベルを選択する
⑨瓶および書式にラベルを貼る
⑩バッグに封印する
⑪最近3日間に服用した薬を述べる
⑫署名をする（選手ならびに同伴者が）
⑬終了（選手は控えを受け取り、係員が原本を保管する）

■まとめ

これまではオリンピック大会やアジア大会といった総合的な国際競技会の際に、ドーピング・コントロールは行われてきている。ところが最近は単一種目の国際競技会でも、ドーピング・コントロールが行われることが一般的になってきている。さらに国内大会であっても、ある競技種目ではドーピング・コントロールが実施されたようである。また競技会の時だけでは不十分であるとして、トレーニングの時に抜き打ち的に検査が実施されるようにもなってきている。

重大な副作用をもたらすことが考えられる薬物を、競技力を上げようとして使用することの愚かさを、今後もアピールしていくことが重要なことである。またフェアプレイ精神からいっても、そのような薬物に頼ることは情けない行動である。このような医学的および倫理的観点から、今後ますますドーピング・コントロールは強化されていくことと思われる。

（本年10月に広島で開催されるアジア大会に参加する日本選手に対して、プレ・ドーピングが実施されることが通達されている。この検査でドーピングリストに挙げられている薬物が発見されると、日本代表選手としての資格が停止される）

（監修：スポーツ医科学委員長　西山逸成）

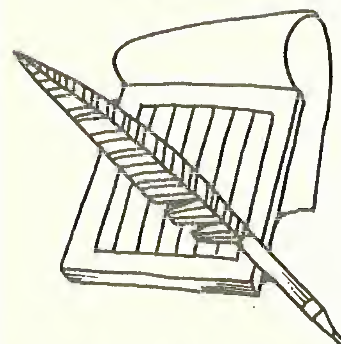
［参考文献］
1　アンチ・ドーピング国際オリンピック憲章とJASAドーピング・データベース．日本体育協会スポーツ科学専門委員会ドーピング対策班　編・訳．ぎょうせい．1991．
2　ドーピングの現状・現実を語る．岡田晃・黒田善雄　編・著．ブックハウスHD．1990．
3　これだけは知っておきたいドーピング．日本水泳連盟監修．ブックハウスHD．1993．

平成6年度登録について
5年度の登録数を超えるか

6月30日現在の登録状況をまとめました。小学生、中学生は実態把握のために実施しました。学校の授業の関係で登録が遅れていますが、他の登録種別はほぼ5年度の登録チーム数、人数になるものと思われます。

本年度より日本リーグ加盟チームを一般Aから「特別」の種別をつくり登録しています。

種別		チーム数	人数	前年度増減 チーム	前年度増減 人数
特別	男子	16	279	—	—
	女子	12	229	—	—
	計	28	508	—	—
一般A	男子	382	5,859	+20	+61
	女子	102	1,613	+1	+31
	計	484	7,472	+21	+92
一般B	男子	118	1,643	0	▲68
	女子	15	201	+6	+70
	計	133	1,844	+6	+2
大学	男子	224	4,038	▲9	▲148
	女子	94	1,496	+7	+43
	計	318	5,534	▲2	▲105
高専	男子	34	625	+2	▲26
	女子	1	9	0	▲2
	計	35	634	+2	▲28
高校	男子	1,459	28,997	▲19	▲1,249
	女子	1,086	18,364	+1	▲534
	計	2,545	47,361	▲18	▲1,783
中学校	男子	508	13,403	▲165	▲4,509
	女子	408	8,702	▲88	▲2,051
	計	916	22,105	▲253	▲6,560
小学生	男子	44	697	—	—
	女子	35	526	—	—
	混合	6	308	—	—
	計	85	1,531	—	—
計		4,544	86,989	—	—



一般用エンブレム発売



申込みは
日本ハンドボール協会事務局へ

申込み方法

現金書留で㈶日本ハンドボール協会事務局までお申込み下さい。価格は1個5000円、入金があり次第お送りします。

フリースロー

「クラブ組織は夢!?」

企画広報委員　早川　文司

長引く不況で、企業スポーツがピンチに立たされている。男子バレーボールの名門NKKが半世紀の歴史を終えたし、女子ではクラボウ、カネボウも廃部。熊谷組はバスケットボールと野球、大昭和製紙も野球と陸上が休部した。ラグビーの日本選手権7連覇を成し遂げた新日鉄釜石も、かつての面影は消え去っている。

これらはいずれも多くの名選手を育て、わが国スポーツ界の発展に大きな足跡を残してきたチームばかりである。

日本のスポーツを支え、発展させてきたのが企業だったことを考えれば、景気に左右されることは当然といえば当然であろう。その結果は、いままで比較的恵まれてきた学生の就職戦線にも木枯しが吹いている。「会社がのるか、そるかというときに、スポーツなんか…」という声があるのもうなずけないわけではない。たとえ今後、景気が上向いても企業側はシビアな姿勢を取り続けることは十分想像できる。

サッカーのJリーグに続いて、バレーボールもプロ化に踏み切った。企業スポーツからの脱皮を図る一つの流れでもあろう。そこでひとつ提案をしたい。

頂点にプロを据えた欧米スタイルのクラブ組織が作れないものだろうか。プロ、一般、大学、中学、小学生、それぞれのチームを抱えての活動である。小・中学生には必ずといっていいほど父母の関心は高い。地域に根づき、貢献も出来る。健全な青少年の育成にもつながるはずだ。そこから真のスポーツ文化が芽生えるし、活性化にも結びつくのではあるまいか。

あの〝観客無視〟だった日本陸連でさえ、あの手この手で観客動員作戦を展開している。「盛り上がりが好成績に結びつく」という発想だからだそうだ。ハンドボールだってドーンと一発、大きな花火を打ち上げてみたい。真夏の夜の夢と笑わないで、真剣に…。

事務局の新しい職務分掌について

㈶日本ハンドボール協会事務局長　斎藤　博

かねてから事務局業務の円滑なる遂行に努めてまいりましたが、この度永年に亘り勤務の清水雅子・菅野恵理さんの両名が一身上の都合にて円満退職した事もあり、ここで事務局全般の見直しを行い、更なる業務の充実と事務局員相互が業務全般に亘る内容について精通する事を目的に、協会役員にも諮り次のごとく新しい職務分掌を決めました。

主なる変更は、本多正樹さんが新しい業務を受け持ち、住谷茂・渡邊直美さんの二名が新たに事務局メンバーに加わり仕事を進めて行くことになりました。

事務局員全員が意欲に燃え、積極果敢に仕事に取り組んで参る所存でおりますが、不慣れのためにご迷惑をお掛けすることも有るかと存じます。

一日も早く体制固めができますよう、皆様の温かいご指導・ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

㈶日本ハンドボール協会　事務局職務分掌

氏名（役職）	主たる職務分掌	その他の職務分掌
斎藤（さいとう）　博（ひろし）（事務局長）	事務局統括 対外関係部署のとの折衝 国際関連業務	国民体育大会　競技会 関連事務
本多（ほんだ）　正樹（まさき）（事務局次長）	競技力向上事業 （含む医科学研究事業） 指導者育成事業 企画・広報・機関誌発行事業	事務局統括補佐 チーム・選手登録関連業務
住谷（すみや）　茂（しげる）	日本リーグ事業 財務・会計業務 普及・審判事業	事業予・実算関連業務 用具検定関連業務
高畠（たかはた）　和江（かずえ）	経理・出納業務	物品販売に関わる業務
渡邊（わたなべ）　直美（なおみ）	総務・庶務業務	賛助会　会員管理 登録関連業務補佐 機関誌発行に関わる業務補佐
中嶋（なかじま）　治美（はるみ）	日本リーグ関連事務補助 （日本リーグ開催時のみ勤務）	



前列右から高畠・渡邊・中島・後列右から本多・斎藤・住谷

各地の大会結果

東北

青森県高校総体

（6月4日〜6日／野辺地町）

◎男子

▼1回戦

三本木 18−15 十和田工業
三本木農業 22−5 横浜分
五所高 15−7 鰺ヶ沢
青森山田 39−10 青森東
青森 26−9 七戸
野辺地 21−10 青森南
今別 21−12 五所工

▼2回戦

青森商 29−14 三本木
三本木農業 16−13 五所高
青森山田 28−17 青森
野辺地 17−16 今別

▼準決勝

青森商 31−7 三本木農業
野辺地 19−17 青森山田

▼決勝

青森商 13−12 野辺地

◎女子

▼1回戦

今別 35−7 野辺工
青森南 31−3 青森東

▼2回戦

青森中央 36−10 今別
三本木 18−12 六ヶ所
野辺地 16−14 青森商
青森西 24−6 青森南

▼準決勝

青森中央 23−13 三本木
青森西 20−14 野辺地

▼決勝

青森中央 20−13 青森西

東北高校選手権大会

（山形県東根市）

◎男子

▼1回戦

帝京安積・福 25−20 湯沢・秋
古川工業・宮 15−7 東根工業・山
北村山・山 23−13 野辺地・青
不来方・岩 21−15 羽後・秋

▼2回戦

盛岡第一・岩 27−12 帝京安積
青森商業・青 26−14 古川工業
仙台育英・宮 23−11 北村山
不来方 19−16 学法石川・幅

▼準決勝

盛岡第一 21−16 青森商業
不来方 19−16 仙台育英

▼決勝

盛岡第一 17−13 不来方

◎女子

▼1回戦

盛岡第二・岩 25−10 古川商業・宮
日大山形・山 22−19 緑が丘・福
北村山・山 19−16 湯沢・秋
青森西・青 21−15 黒沢尻南・岩

▼2回戦

盛岡第二 25−13 大曲農業・秋
青森中央・青 25−20 日大山形
郡山女子・福 19−12 北村山
聖和学園・宮 24−11 青森西

▼準決勝

盛岡第二 31−17 青森中央
郡山女子 14−8 聖和学園

▼決勝

盛岡第二 24−10 郡山女子

関東

群馬県高校選手権大会

（6月19日・26日／富岡市）

◎男子

▼1回戦

前橋商 19−13 玉村
高工 19−8 藤工
下仁田 17−6 前橋
富岡実 40−1 太田市商
高崎東 24−4 太田
富岡 29−0 桐生工
藤岡 23−8 桐生

▼2回戦

富岡 18−14 富岡実
前橋商 26−6 高崎工
吉井 24−14 下仁田
藤岡 24−18 高崎東

▼準決勝

富岡 31−8 前橋商
吉井 40−14 藤岡

▼決勝

富岡 20−19 吉井

◎女子

▼1回戦

前橋商 14−10 下仁田
高崎女 13−10 桐生女
高崎経大附 20−7 太田市立商

▼2回戦

高崎東 15−6 富岡実
群馬女 26−7 高崎女
吉井 35−6 前橋商
桐生西 31−5 高崎経大附

▼準決勝

群馬女 28−12 吉井
桐生西 26−16 高崎東

▼決勝

群馬女 26−17 桐生西

※男子・富岡高校は3年連続28回目の優勝。女子・群馬女子短大附属高校は9年連続13回目の優勝。

関東高校大会

（6月4〜6日／埼玉県）

◎男子

▼1回戦

市川・千 30−18 県前橋商・群
浦和実業・埼 32−16 県立守谷・茨
拓殖大一・都 29−10 日大明誠・山
國学院大栃木 13−12 県川口東・埼
桐光学園・神 23−14 都立永山・都
明星・都 20−15 県立日川・梨
東京農一・都 24−15 県足利工・栃
県立岩井・茨 22−13 県立多摩・神
東京学館・千 20−15 駿台甲府・梨
県立伊奈・茨 18−17 県立富岡・群
東京・都 23−19 県小山南・栃

県立大和・神 24－18 東京農三・埼

▼2回戦
横浜商工・神 23－19 市川
浦和実業 22－10 拓殖大第一
國學院大栃木 23－17 桐光学園
県立吉井・群 17－15 明星
浦和学院・埼 23－12 東京農大第一
東京学館高 17－13 県立岩井高
県立伊奈高 19－16 東京高
二松学舎沼南・千 20－15 県立大和高

▼3回戦
横浜商工高 17－14 浦和実業高
県立岩井高 16－15 國學院栃木
浦和学院高 17－10 東京学館高
東京高 18－17 二松学舎沼南

▼準決勝
横浜商工高 34－22 県立吉井高
浦和学院高 24－17 県立伊奈高

▼決勝
横浜商工高 16－14 浦和学院高

◎女子

▼1回戦
県栃木女・栃 16－12 西武台高・埼
県川崎北・神 18－12 県吉井高・群
水海道二・茨 34－3 菊華高・都
文化杉並・都 20－17 浦和実業・埼
県栃木南・栃 22－13 吉田商業・梨
市立金沢・神 15－14 和洋国府台・千
群女短付・群 22－15 高木女子・神
県立麻生・茨 21－7 県立日川・梨
横浜日野・神 23－8 伊奈総合・埼
栃木商業・栃 21－7 水海道一・茨
埼玉栄高・埼 26－13 江東商業・都
明倫・神 13－7 東邦大東邦・千

▼2回戦
昭和学院・千 5－7 県栃木女子
水海道二高 2－12 県川崎北高
文化付杉並 6－16 県栃木南高
市立金沢高 8－16 県桐生西高
群馬女短付 2－15 佼成学園・都
横浜日野高 7－10 県立麻生高
栃木商業高 8－14 埼玉栄
明倫高 9－12 県立山梨・梨

▼3回戦
水海道二高 14－13 昭和学院高
文化付杉並 20－9 市立金沢高
群馬女短付 20－17 横浜日野高
栃木商業高 15－12 明倫高

▼準決勝
水海道二高 18－10 文化付杉並
栃木商業高 16－12 群馬女短付

▼決勝
水海道二高 26－5 栃木商業高

※男子・横浜商工高は5回目の優勝。女子・水海道二高は11回目の優勝。

群馬県中学校春季大会

（6月5・11日／富岡市）

◎男子

▼1回戦
藤北中 19－6 相生中
松南中 25－9 甘三中
富西中 16－14 藤南中
南八中 30－14 下東中
下西中 23－9 甘二中

▼2回戦
富東中 23－13 藤北中
富西中 21－14 松南中
富岡中 26－15 南八中
富南中 27－10 下西中

▼準決勝
富東中 18－10 富西中
富岡中 23－14 富南中

▼決勝
富東中 20－14 富岡中

◎女子

■aリーグ
富南中 25－12 塚沢中
富南中 15－8 富西中
富西中 11－10 塚沢中

■bリーグ
富東中 19－11 富岡中
富東中 21－5 桐生中
富岡中 26－3 桐生中

▼準決勝
富南中 21－12 富岡中
富西中 11－10 富東中

▼決勝
富南中 18－12 富西中

大川杯茨城県民体育大会

（日時不明／会場不明）

◎男子

▼1回戦
取手松陽高 26－7 水戸一高
笠間高 25－18 鉾田一高
古河三高 23－18 土浦一高
藤代高 21－14 下館一高

▼2回戦
伊奈高 31－8 取手松陽高
牛久栄進高 18－15 岩井西
麻生高 25－14 竜ヶ崎南高
土浦日大高 21－20 笠間高
岩井高 32－10 古河三
霞ヶ浦 22－16 水海道一高
太田一 29－20 土浦工
守谷 29－15 藤代

▼3回戦
伊奈 23－13 牛久栄進高
土浦日大高 22－10 麻生
岩井 27－9 霞ヶ浦
守谷 17－13 太田一

▼準決勝
伊奈 20－15 土浦日大高
守谷 18－17 岩井

▼決勝
伊奈 16－13 守谷

◎女子

▼1回戦
日立二 30－8 下館二
竜ヶ崎一高 17－13 伊奈
藤代紫水高 25－15 竜ヶ崎二高
鉾田二 17－16 磯原

▼2回戦
水海道二高 38－6 日立二
岩井 17－16 下妻二
中央 19－6 鉾田一
竜ヶ崎一高 16－15 聖徳大付高
麻生 24－19 藤代紫水高
愛国学園高 16－13 石岡二
土浦二 17－6 水戸二
水海道一高 27－8 鉾田二

▼3回戦
水海道二高 33－7 岩井
竜ヶ崎一高 14－10 中央
麻生 13－11 愛国学園高
水海道一高 25－2 土浦二

▼準決勝
水海道二高 39－11 竜ヶ崎一高
麻生 21－15 水海道一高

▼決勝
水海道二高 35－12 麻生

信越

長野県高校総体
（6月3～5日／更埴市他）

◎男子

▼1回戦

千曲 21－17 北農

▼2回戦

屋代 38－5 千曲
松本一 26－13 臼田
蟻ケ崎 32－23 坂城
野沢北 41－7 富士見
田川 34－6 野沢南
上田 23－16 更級農
清陵 21－19 美須々
小諸 41－10 長野東

▼3回戦

屋代 34－6 松本一
野沢北 31－11 蟻ケ崎
田川 18－10 上田
小諸 29－14 清陵

▼準決勝

屋代 22－18 野沢北
田川 17－16 小諸

▼3位決定戦

小諸 19－12 野沢北

▼決勝

屋代 29－16 田川

◎女子

▼1回戦

松本一 19－14 佐久
小諸商 10－9 長野南
蟻ケ崎 33－3 臼田
田川 23－15 北農
美須々 15－13 坂城

▼2回戦

屋代 46－6 松本一
蟻ケ崎 24－8 小諸商
田川 21－18 更級農
塩尻 37－6 美須々

▼準決勝

屋代 27－13 蟻ケ崎
塩尻 27－14 田川

▼3位決定戦

蟻ケ崎 25－17 田川

▼決勝

屋代 21－10 塩尻

東海

愛知県高校総体
（5月22日～6月5日／豊田南高校）

◎男子

▼1回戦

桜丘 25－13 佐織工
美和 15－14 東海
旭丘 28－11 丹羽
松蔭 17－16 岡崎北
五条 21－12 豊川工
名城大付属 19－17 岡崎
中京 21－15 安城東
愛知 14－7 東海南

▼2回戦

桜台 24－7 桜丘
刈谷工 18－17 美和
旭丘 21－7 江南
春日丘 12－8 松蔭
春日井南 30－11 五条
名城大付属 15－13 半田
蒲郡東 18－17 中京
岡崎城西 29－13 愛知

▼3回戦

桜台 35－8 刈谷工
春日丘 13－8 旭丘
春日井南 22－10 名城大付属
岡崎城西 27－11 蒲郡東

▼決勝リーグ

桜台 24－13 春日丘
岡崎城西 22－12 春日井南
岡崎城西 31－10 春日丘
桜台 26－8 春日井南
春日井南 18－9 春日丘
桜台 12－11 岡崎城西

（順位）①桜台②岡崎城西③春日井南④春日丘

◎女子

▼1回戦

豊田南 22－16 愛知商
旭野 11－10 一宮女
半田 14－10 刈谷北
旭丘 23－11 衣台
昭和 14－9 武豊
春日井西 27－9 木曽川
豊橋東 18－11 一宮南
安城学園 25－11 富田

▼2回戦

名短付 25－4 豊田南
旭野 15－11 豊橋商
佐屋 15－14 半田
旭丘 12－11 桜台
三好 19－5 昭和
春日井西 30－4 半田商
中京女 36－5 豊橋東
東海女 22－14 安城学園

▼3回戦

名短付 29－6 旭野
旭丘 20－19 佐屋
春日井西 24－15 三好
東海女 18－11 中京女

▼決勝リーグ

名短付 33－16 旭丘
東海女 24－15 春日井西
東海女 32－19 旭丘
名短付 20－11 春日井西
春日井西 21－12 旭丘
名短付 16－13 東海女

（順位）①名短付②東海女③春日井西④旭丘

三重県高校総体
（6月4～6日／四日市西高他）

◎男子

▼1回戦

桑名西 24－8 名張西
津工 22－12 津
川越 26－11 海星
四日市中央工 11－10 桑名北
四日市西 19－12 四日市
高田 29－8 上野工
四日市四郷 15－7 朝明
桑名 10－7 津東
四日市南 24－12 三重

▼2回戦

四日市工 51－7 桑名西
津工 18－14 上野
川越 20－14 暁
高田 21－8 四日市四郷
亀山 34－10 四日市西
四日市中央工 27－18 尾鷲
桑名 14－11 桑名工

四日市南 17－8 津西

▼3回戦
四日市工 37－8 津工
桑名 13－10 四日市南
川越 24－16 四日市中央工
亀山 23－7 高田

▼準決勝
四日市工 46－3 川越
亀山 18－9 桑名

▼3位決定戦
桑名 18－8 川越

▼決勝
四日市工 29－15 亀山

◎女子・

▼1回戦
暁 49－2 四日市西
名張西 17－10 上野
三重 35－9 桑名西
四日市南 16－4 尾鷲
四日市 41－7 津
亀山 11－9 川越
四日市商 26－4 四日市四郷
津東 19－8 桑名

▼2回戦
暁 19－3 名張西
四日市商 17－6 津東
三重 21－11 四日市南
四日市 29－3 亀山

▼準決勝
暁 32－6 三重
四日市商 24－14 四日市

▼3位決定戦
四日市 24－13 三重

▼決勝
暁 30－8 四日市商

※男子・四日市工業高校は6年連続35回目の優勝。女子・暁は16年連続19回目の優勝。

近畿

高校総体京都府予選

（5月29日～6月19日／田辺高校他）

◎男子

▼1回戦
桂 23－10 東山
南八幡 23－14 両洋

▼2回戦
洛北 18－14 桂
城南 17－13 八幡
西宇治 23－14 北稜
西乙訓 36－13 城陽
京都西 19－10 洛西
堀川 32－10 日吉丘
平安 19－13 木津
向陽 36－2 宇治
東宇治 19－9 洛水
田辺 20－14 洛星
久御山 26－17 塔南
嵯峨野 22－6 山城
北嵯峨 31－7 乙訓
洛東 20－5 同志社
桃山 20－5 京学園
大谷 18－10 南八幡

▼3回戦
洛北 15－10 城南
西宇治 18－16 西乙訓
京都西 32－18 堀川
向陽 26－9 平安
東宇治 21－9 田辺
嵯峨野 34－3 久御山
北嵯峨 39－6 洛東
大谷 22－13 桃山

▼4回戦
洛北 32－11 西宇治
京都西 19－18 向陽
東宇治 21－14 嵯峨野
北嵯峨 21－15 大谷

▼準決勝
京都西 14－10 洛北
北嵯峨 11－10 東宇治

▼3位決定戦
東宇治 13－9 洛北

▼決勝
北嵯峨 20－17 京都西

◎女子

▼1回戦
洛水 27－5 精華女
桃山 20－2 北稜
南八幡 22－5 久御山
西宇治 22－4 京学園
桂 14－12 西乙訓
山城 22－1 西山
西京商 24－1 洛西
府立商 16－7 乙訓
城南 19－3 明徳商
日吉丘 40－3 洛東
北嵯峨 22－3 光華

▼2回戦
洛北 28－13 洛水
桃山 16－8 南八幡
東稜 18－5 西宇治
京都女 29－8 桂
東宇治 17－6 山城
府立商 29－9 西京商
城南 17－3 日吉丘

▼3回戦
向陽 16－10 北嵯峨
洛北 30－7 桃山
東稜 9－8 京都女
東宇治 26－7 府立商
向陽 16－9 城南

▼準決勝
洛北 20－10 東稜
向陽 12－11 東宇治

▼3位決定戦
東稜 12－8 東宇治

▼決勝
洛北 23－6 向陽

和歌山県春季選手権大会

（4月29日～5月1日／和歌山商業高校他）

◆一般

◎男子の部

▼1回戦
有田オールスターズ 棄権 海南クラブ
JOKER 22－8 和医大
白馬クラブ 17－16 紀伊クラブ

▼2回戦
那賀クラブ 18－14 有田オールスターズ
和高専 23－21 粉河クラブ
住友金属 21－15 JOKER
県商クラブ 27－19 白馬クラブ

▼準決勝
那賀クラブ 26－6 和高専
住友金属 17－14 県商クラブ

▼決勝
那賀クラブ 15－14 住友金属

◎女子の部

▼決勝
shell K 15－8 那賀クラブ

◆高校の部

◎男子

▼1回戦
貴志川高 16－13 桐蔭高

▼2回戦
紀北農芸高 27－11 貴志川高
和歌山東高 23－10 笠田高
近大付和歌山 19－7 海南高
新宮高 22－8 御坊商工高
粉河高 14－9 県和商高
箕島高 14－10 新宮商高
耐久高 17－4 和歌山工高
市和商高 10－8 那賀高

▼3回戦
紀北農芸高 27－10 和歌山東高
近大付和歌山 18－17 新宮高
箕島高 21－13 粉河高
市和商高 11－11 耐久高 2PTC1

▼準決勝
紀北農芸高 22－13 近大付和歌山
市和商高 15－14 箕島高

▼決勝
紀北農芸高 18－11 市和商高

◎女子の部

▼1回戦
海南高 13－7 箕島高
粉河高 16－8 御坊商工高
新宮高 8－5 県和商高
新宮商高 17－3 桐蔭高

▼2回戦
初芝橋本高 17－1 海南高
貴志川高 17－3 粉河高
那賀高 17－11 新宮高
笠田高 19－8 新宮商高

▼準決勝
初芝橋本高 22－1 貴志川高
那賀高 21－9 笠田高

▼決勝
初芝橋本高 20－9 那賀高

◆中学校の部

◎男子

▼1回戦
金屋中 21－13 湯浅中
貴志川中 23－7 近大付和歌山

▼2回戦
紀伊中 17－15 金屋中
打田中 21－20 岩出中
那賀中 38－1 岩出二中
有功中 18－17 貴志川中

▼準決勝
紀伊中 20－11 打田中
那賀中 22－8 有功中

▼決勝
那賀中 21－18 紀伊中

◎女子

▼予選aリーグ
岩出中 14－2 桃山中
桃山中 15－8 貴志川中
岩出中 19－7 貴志川中

▼予選bリーグ
岩出二中 24－5 粉河中
那賀中 13－12 打田中
岩出二中 23－17 那賀中
打田中 19－14 粉河中

▼準決勝
岩出中 12－11 那賀中
岩出二中 14－5 桃山中

▼決勝
岩出中 8－3 岩出二中

四国

愛媛県高校総体地区予選

■東予地区（4月24、29日）

◎男子

▼1回戦
新居浜西 17－2 今治工
今治東 25－8 新居浜商業

▼決勝リーグ
新居浜工業 31－12 新居浜西
新居浜工業 35－12 今治東
新居浜工業 15－11 今治西
今治西 28－9 今治東
今治西 26－4 新居浜西
今治東 21－19 新居浜西

◎女子

▼1回戦
今治北 33－0 弓削
今治南 10－4 小松
新居浜商業 14－11 新居浜東
今治東 37－4 今治西

▼決勝リーグ
今治北 10－7 今治南
今治北 19－12 今治東
今治北 18－11 新居浜商業
今治南 13－10 新居浜商業
今治南 15－8 今治東
新居浜商業 16－15 今治東

■南予地区（5月1日）

◎男子
宇南 25－11 吉田

■中予地区（4月29日、5月1日）

◎男子

▼1回戦
松山西 13－5 松山中央
松山商業 23－11 伊予

▼2回戦
松山工業 18－5 松山中央
松山東 21－16 新田
松山南 20－17 城南
松山北 22－18 松山商業

▼準決勝
松山工業 20－11 松山東
松山北 20－16 松山南

▼3位決定戦
松山東 19－10 松山南

▼決勝
松山北 18－16 松山工業

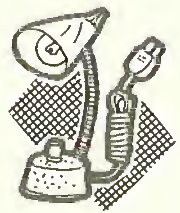
◎女子

▼予選リーグ
A松山商業14－9松山西松山商業11－10松山中央松山西21－6松山中央
B伊予12－5東温松山北32－5東温松山北18－14伊予

▼1回戦
伊予 8－6 松山商業
松山北 21－8 松山西

▼3位決定戦
松山西 6－5 松山商業

▼決勝
松山北 27－12 伊予



（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三四四号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成六年七月二十六日 印刷 平成六年八月一日 発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 三四八一―二三六一
振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三
編集兼発行人 中澤重夫
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）













